

人とつながり、街にひろがる
さっぽろの未来へ貢献する

(仮称)札幌博物館基本計画 (案)

札 幌 市

序章

- 1 これまでの経緯 1
- 2 計画策定の目的 1
- 3 計画の位置付け 2

第1章 札幌博物館の使命

- 1 札幌市博物館活動センターにおける活動の成果と課題 3
- 2 急速な社会環境の変化 ～社会的背景～ 7
- 3 札幌博物館の使命 8

第2章 札幌博物館の基本テーマと対象領域

- 1 札幌博物館の基本テーマ 11
- 2 札幌博物館の対象領域 12

第3章 事業活動計画

- 1 事業活動の考え方 13
- 2 事業活動の構造 13
- 3 活動拠点（コア）における事業展開 14
- 4 ネットワーク型ミュージアムのしくみ 21

第4章 施設計画

- 1 札幌博物館の候補地 23
- 2 札幌博物館の諸室整備 23
- 3 札幌博物館の規模 25

第5章 運営計画

- 1 運営方式の考え方 26
- 2 柔軟かつひらかれた運営体制 26
- 3 誰もが気軽に利用できる開館形態 28

第6章 整備推進方針

- 1 市民みんなで考え、つくる 29
- 2 多彩な専門職員の配置など体制づくり 29
- 3 実現に向けて 29

資料

- 資料1 次世代型博物館計画検討委員会設置要綱 30
- 資料2 次世代型博物館検討委員会名簿 31
- 資料3 展示案 32
- 資料4 札幌博物館における3事業の具体例 38
- 資料5 地域課題解決事業（ソリューション事業）の展開例 39
- 資料6 つながり創出事業（リレーション事業）の展開例 40
- 資料7 施設計画の参考資料 42

(仮称)札幌博物館基本計画【概要版①】

序章

1 これまでの経緯

- ・S 61 市教委による自然史系博物館の検討開始
- ・H 8 博物館基本構想委員会から「北・その人と自然」を基本テーマとする自然系総合博物館を目指す提言
- ・H 9 行財政改革推進計画により博物館建設計画は凍結
- ・H13 札幌市博物館計画推進方針策定、博物館活動センター開設

2 計画策定の目的

社会情勢・社会環境の変化と博物館に求められる役割を踏まえ、札幌の自然と人の関わりを探索し、札幌の未来に貢献する博物館を創り上げていく計画を策定します。

3 計画の位置付け

平成25年に制定された「札幌市まちづくり戦略ビジョン」を受けた、個別計画として位置付けます。

第1章 札幌博物館の使命

博物館活動センターにおける活動の成果と課題 + 急速な社会環境の変化

-課題抽出- ・資料収集分野・研究分野の偏り ・ネットワーク機能の不足 ・団体利用への対応不可 など

札幌博物館の使命

使命①

札幌市民としての郷土への愛着と誇りを育む

使命②

創造性あふれる人材の育成

使命③

自然と人の観点からまちづくりに貢献

第2章 札幌博物館の基本テーマと対象領域

基本テーマ

北・その自然と人

	札幌博物館	北海道博物館	北海道大学総合博物館
領域	石狩低地帯形成の1億3千万年	人間史中心の120万年	北大開学140年の研究成果
特徴	・自然史の視点から札幌の自然、歴史、文化を明らかにする「自然史系博物館」	・人間史の博物館 ・アイヌ文化を保存・伝承し、未来に活かす博物館	・学術標本の活用と学芸員研修や研究活動への援助を通じた博物館への貢献する「大学博物館」
使命	1札幌市民としての郷土への愛着と誇りを育む 2創造性あふれる人材の育成 3人と自然の観点からまちづくりに貢献	1博物館としての基本的機能の充実 2北海道における総合的な博物館 3道内博物館の中核となる施設	1学術標本の管理・整理、次世代への継承と情報の提供 2学術資料を用いた学際的研究分野の開拓 3展示・セミナー等を通じた教育普及活動 4博物館文化の創造と発信
対象	市民や札幌の観光客など ・市民にとっては札幌の独自性を総合的に学ぶ唯一の場であり、観光客などの来訪者にとっては札幌の魅力を楽しむ施設	道民 ・特定の地域や人ではなく、北海道と道民が対象	学生・研究者 ・高等教育機関の博物館として学生・研究者への情報提供が中心
基本テーマ	北・その自然と人	北東アジアの中の北海道	モノ・コト・ヒトをつなぐ
展示テーマ	札幌の独自性を示す5つのサブテーマ 1さっぽろの自然景観の形成 石狩低地帯の形成と札幌の山、川、台地の形成史 2さっぽろの生命と生物の進化 札幌産出の化石から見る生物の進化 3さっぽろの自然と人類の共生 札幌の生物多様性と人々の暮らし 4さっぽろの交流史 気候変動に伴う環境と文化の交流 5さっぽろの形成史 札幌の街並み形成した自然背景を歴史や人とあわせて紹介	プロローグ 1北海道120万年物語 ナウマンゾウ、マンモスゾウ、北海道に生きた人 2アイヌ文化の世界 アイヌの口承文芸、伝統文化、暮らしと意識 3北海道らしさの秘密 明治、大正、昭和を経て作られた北海道らしさ 4わたしたちの時代へ 戦争、開発、自然保護など人と自然の関係を展示 5生き物たちの北海道 生物同士のつながりを、生態系ごとに展示	学術テーマ展示・知の統合 生き続ける札幌農学校精神 実学の精神 ロフティアンピションの系譜 知との対話 知との統合 循環から見る自然と人 生命／多様性と普遍性 人間・社会・自然と科学技術 北を見る目・北から見る目

第3章 事業活動計画

1 事業活動の考え方

市民とともに自然史の視点から札幌の独自性を明らかにする

2 事業活動の構造 — ネットワークの形成～多様な活動を展開するために～

活動拠点(コア)

札幌博物館の施設

つながり起点(サテライト)

札幌博物館の外にある既存施設や各種資産

- (ア) 博物館・研究機関等 …北海道大学総合博物館(北区)、北海道博物館(旧 北海道開拓記念館、厚別区) 等
 (イ) 教育機関 …市内の幼稚園、小中学校、高等学校、大学 等
 (ウ) 地域の歴史や文化の拠点 …清華亭(北区)、屯田郷土資料館(北区)、札幌村郷土資料館(東区)、手稲記念館(西区) 等
 (エ) 自然・歴史・文化の足跡をうかがい、知ることのできる地域の資産 …藻岩山(南区)、石山緑地(南区)、手稲山(手稲区) 等

3 活動拠点(コア)での事業活動の展開

【展示・解説】

感動伝達事業(エモーション事業) : 札幌の自然史の魅力を伝える

札幌の自然史を実感する「本物」の迫力や魅力を展示
様々な講座や体験事業など学芸員のきめ細かな対応

【収集・保存・調査・研究】

地域課題解決事業(ソリューション事業) : 札幌の独自性を解明、成果を発信・活用

札幌の独自性を明らかにする資料を広く収集し、適切な環境で保存、未来に継承
日常生活や地域性のあるテーマの調査・研究、研究成果の発信・活用

【普及・交流】

つながり創出事業(リレーション事業) : ネットワークを結び「つながり」を強め活動を広げる

感動伝達事業や地域課題解決事業の成果や活動を街全体に広げ、
市民や関係機関とつながりを強める

4 ネットワーク型ミュージアムのしくみ

人が出会い、人とつながる

- ・感動的な展示と親しみやすい解説で、何度も足を運びたいような体験や交流の場を提供
- ・同じ興味や関心を持つ人が出会い情報を分かち合う機会を提供し、世代を問わず人と人がつながり、グループを形成

グループが活動する

- ・人が出会い、人とつながる中で生まれたグループの博物館活動を、積極的に支援

活動が街にひろがる

- ・様々な活動の成果を得たグループや個人が、札幌の街全体をフィールドに多彩な活動を展開

【具体例】

- ・展示の迫力(体長7mのサッポロカイギュウ)と学芸員の解説
- ・体験学習会・講座
- ・出前展示
- ・科学絵本読み聞かせと学芸員の井戸端サイエンス
- ・サイエンス・フォーラム

- ・えぞホネ団…動物標本・レプリカ・教材製作
- ・読み聞かせ・朗読ユニット月et兔
- ・西岡公園植物調査班
- ・札幌自然史研究会(化石のクリーニング)

- ・えぞホネ団の活動
- …円山動物園(スネークアート展)、大阪府自然史博物館(ほねまねザット)への参加

(仮称)札幌博物館基本計画【概要版②】

第4章 施設計画

1. 札幌博物館の候補地

- 立地条件**
- ▶ 市民が集いやすく、観光客が来訪しやすい場所
 - ▶ 館の基本テーマ「北・その自然と人」を実感できる環境
 - ▶ 3事業(感動伝達事業、地域課題解決事業、つながり創出事業)の展開に必要な規模を確保

札幌駅・大通駅とその周辺の都心部
▶ 地下鉄・市電を利用して「つながり起点(サテライト)」にアクセスしやすい

札幌駅～大通、西11丁目周辺地域
▶ 札幌の自然史を垣間見る豊平川扇状地の湧水(メム)が分布
▶ 札幌の成り立ちを実感できる札幌市資料館や大通公園などの歴史・文化資産がある

閉館・解体予定の「さっぽろ芸術文化の館」がある(敷地面積 約11,000㎡)



「さっぽろ芸術文化の館」のある「北1条西12丁目街区」を札幌博物館の建設候補地として位置付ける

2. 札幌博物館の諸室整備 3事業を効率的に展開するための諸室整備

- 感動伝達領域**：いつ来ても新しい発見ができる展示内容を容易に更新、可変性を重視した構造
 - 展示エリア … 常設展示室、企画展示室、特別展示室 等
 - 普及・交流エリア … 講義室、実習室、講堂、作業室 等
- 地域課題解決領域**：適切な収蔵環境の整備、専門的な調査・研究活動に対応
 - 収集・保存エリア … 収蔵庫、特別収蔵庫 等
 - 調査・研究エリア … 研究室、標本検査室、洗浄処理室 等
- つながり創出領域**：思わず立ち寄りてみたくなるにぎわいと交流の場
 - エントランス・交流エリア … 図書閲覧室、ミュージアムショップ、カフェ 等
- 管理・その他領域**
 - 管理・共用その他エリア … 事務室、会議室、機械室 等

3. 札幌博物館の規模

展示内容、館内で行われる諸活動について詳細に詰め、それに合わせた規模や諸室を検討する

【参考】類似施設の延床面積 10,000～17,000㎡
三重県総合博物館(平成26年開館)、大阪市立自然史博物館(平成18年リニューアル)、北九州市立いのちのたび博物館(平成14年開館)

第5章 運営計画

1. 運営方式の考え方

公立博物館は、「直営方式」と「指定管理者方式」が中心
一部の地方自治体では、「地方独立行政法人化」を検討 → この中から最適な運営方式を検討する

2. 柔軟かつひらかれた運営体制

- ① 組織の考え方 ⇒ 事業や活動を連携させていく調整役の人材としてのコーディネーターの配置
- ② 市民活動参画登録制度の検討
- ③ 外部有識者で構成する評価委員会

3. 誰もが気軽に利用できる開館形態

開館日、開館時間、利用料金 → 適切なあり方について、検討を進める

第6章 整備推進方針

市民みんなで考え、つくる

多彩な専門職員の配置など体制づくり

具体的計画の策定(展示基本計画、整備基本計画、管理運営基本計画)

展示シナリオ案

札幌の独自性や魅力を感動的に伝えます。



エントランス展示

思わず足を止めて見入ってしまう展示
世界最古の大型海牛(サッポロカイギュウ)と中新世・世界最大のクジラ化石(小金湯産クジラ)

ポータル展示

展示の概要を紹介、市内の情報検索

5つのサブテーマ展示

札幌の自然・歴史・文化の独自性を、基本テーマに基づいた5つのサブテーマで構成し、さまざまな手法で展示します。

さっぽろの自然景観の形成



石狩低地帯は、日本海とオホーツク海の拡大、さらに太平洋プレートの沈み込みによって形成された、世界的に見ても独自の形成過程をもつことを、アニメーションで紹介

さっぽろの生命と生物の進化



札幌産出の化石は、地球環境の変動と動植物の適応進化を受けて、世界で最初に大型化した、環境と生物進化と生物多様性の関連性を実証する世界的にも貴重な化石であることを映像で解説

さっぽろの自然と人類の共生



札幌の市街地がある扇状地は、豊平川の洪水によって形成された災害の証、また、温泉は、火山活動によるマグマの熱が供給源であることなど、厳しい自然とその恩恵を受けて営まれた札幌の歴史や人々の暮らしを紹介

さっぽろの交流史



ユーラシア大陸の東縁に浅い海峡をはさんで並ぶ日本列島は、地球規模の寒暖に同調した海水準の上昇・下降にあわせ、「北方系」と「南方系」の自然と文化が交流した歴史を展示

さっぽろの形成史



14世紀から19世紀にかけて起こった世界的な寒冷化がロシアの東進と江戸幕府の蝦夷地開拓を進め、やがて、両者の衝突を契機に展開する札幌の歴史やそれに関わる人物などを紹介

収蔵展示(ミドルヤード展示)

札幌の自然の現況と生物多様性を実感できる展示



企画展示

札幌の独自性を示す企画展示や市民企画の展示のほか、道内外の博物館による巡回展や大型の特別展などを開催

ユビキタス展示

インターネット配信などを使って博物館の情報を場所・時間を問わず利用できるしくみで、インターネット上で博物館を見学したり、博物館で実施された講演をインターネットで配信したり、市内のとある風景にスマートフォンのカメラをかざすと昔の風景映像が重なって表れるARコンテンツなどを配信します。



序章

1. これまでの経緯

札幌市における博物館の検討については、昭和61（1986）年に教育委員会において自然史系博物館の検討が始まってから、現在に至るまで、以下のような経過をたどっています。

年度	概要
昭和61(1986)年度	●教育委員会で自然史系博物館の検討を開始
平成8(1996)年度	●札幌市博物館基本構想委員会から「北・その自然と人」を基本テーマとする自然系総合博物館を目指す提言を受理 ●札幌市博物館建設準備委員会設置 ●リネージュプラザ5・6階に仮収蔵庫整備
平成9(1997)年度	●札幌市行財政改革推進計画に伴い、博物館活動を先行実施し、施設の建設については凍結することが決定
平成10(1998)年度	●学芸系職員1名を採用(古生物学) ●札幌市博物館建設準備委員会から、「北・その自然と人」をテーマとし、市民とのパートナーシップを基本とした博物館づくりを目指す内容と開館準備、活動計画に関する提言を受理
平成13(2001)年度	●平成10年の提言を受け、『札幌市博物館計画推進方針』を策定し、博物館整備に対する基本的考え方と方向性、開館準備期における博物館活動の指針を決定 ●上記の方針を受け、博物館活動を先行させるため、博物館活動センターを開設 ●学芸系職員1名を採用(植物学)
平成13(2001)年度～	●以降、博物館活動センターにて、様々な博物館活動の取組み開始
平成23(2011)年度	●第3次札幌新まちづくり計画(～平成26年度)がスタートし、これまでの博物館活動の成果を踏まえて、札幌の自然と人の関わりなどを市民とともに探究する、街や市民に開かれた新たな博物館計画を策定することを決定
平成24・25 (2012-13)年度	●上記の計画を策定するため、次世代型博物館計画検討委員会を発足。委員会8回、ワーキンググループ9回開催(総計)
平成26(2014)年度	●新たな『基本計画』の策定(予定)

2. 計画策定の目的

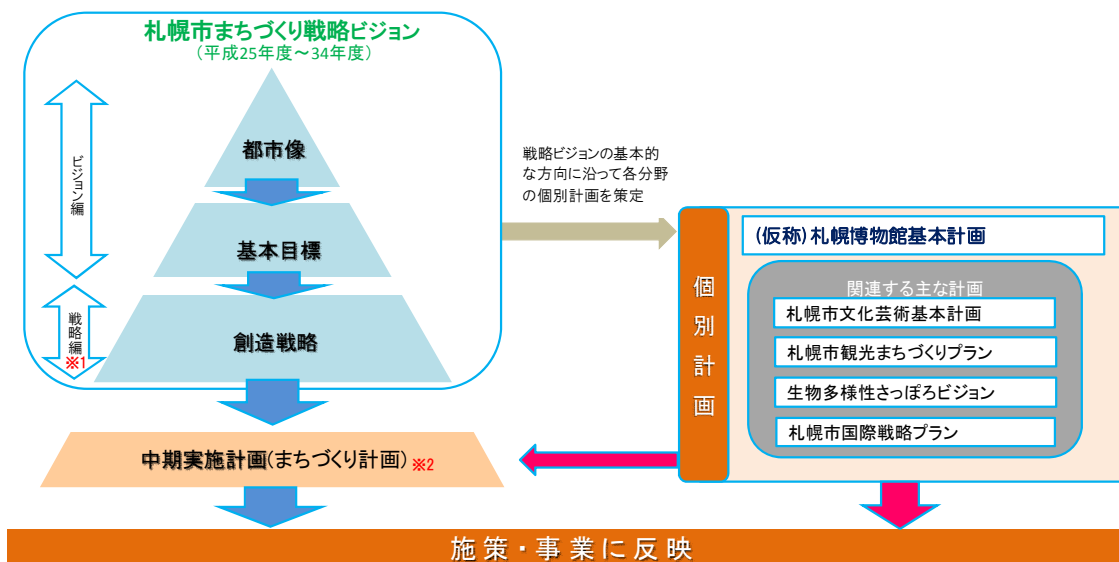
本市の博物館計画は、平成10（1998）年の提言を受け、平成13（2001）年に策定した「札幌市博物館計画推進方針」に基づき、博物館活動センターを開設し、現在まで10余年にわたり博物館活動を進めています。

その間、社会情勢や社会環境は大きく変化し、それに伴い博物館に求められる役割も変わりつつあることから、新たに博物館に関する基本計画を策定することで、これまでの博物館活動センターにおける活動成果や課題なども踏まえながら、市民とともに札幌の自然と人の関わりを探究し、札幌の未来に貢献する博物館を創り上げていくために必要と考える要点を整理していきます。

（今後、札幌市の目指す博物館を「(仮称)札幌博物館」と呼び、以降「札幌博物館」と表記します。）

3. 計画の位置付け

平成 25（2013）年度に、これまでの札幌市基本構想と札幌市長期総合計画に代わる最上位計画として策定された「札幌市まちづくり戦略ビジョン」を受けた個別計画に位置付けられます。



※1 まちづくり戦略ビジョン【戦略編】[平成 25～34 年度]における博物館計画の位置付け
第1章 創造戦略 第2節 産業・活力 創造戦略6 産業人材創造戦略
①将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用 創造性や国際感覚豊かな人材の育成

※2 第3次札幌新まちづくり計画[平成 23～26 年度]における博物館計画の位置付け
政策目標 5 市民が創る自治と文化の街
重点課題 5-2 多彩な文化芸術の創造とスポーツを楽しむ健康づくりを推進するまちづくり
施策 5-2-1 市民が多彩な文化芸術に親しむとともに、自ら作り上げる文化活動の振興
事業名 次世代型博物館計画策定事業

「次世代型」博物館とは…

これまでの博物館は、保存を博物館の使命とした“第一世代”、そこに公開を取り入れた“第二世代”、更に、参加・体験を重視した“第三世代”の博物館に分類されています。札幌博物館では、企画・運営を含め、すべての博物館活動に市民が主体的に参画するという意味で参加・体験を越えた“次の世代”の博物館という意味や、市民や社会の要望に応えた ICT¹などの“次世代型”先端技術の利用、さらに、未来を担う次世代の子どもたちや市民の教育、学術、文化の発展に寄与する機関として、市民とともに札幌の自然を探求し、創造性を育む、街や市民に開かれた博物館という意味を次世代型博物館に込めました。

¹ ICT：Information and Communication Technology の略語。情報通信技術。IT（Information Technology）といわれる概念にほぼ一致する。

第1章 札幌博物館の使命

平成 13（2001）年に策定された「札幌市博物館基本計画推進方針」以降、私たちを取り巻く生活環境、社会環境が変わり、それに伴い、私たちの価値観も変化してきました。平成 13（2001）年以降の博物館活動センターの活動の総括と社会背景を踏まえ、札幌博物館の使命についてまとめていきます。

1. 札幌市博物館活動センターにおける活動の成果と課題

札幌市博物館活動センターでは、平成 13（2001）年 11 月の開設以来、収集・保存や調査・研究などの活動を推進してきました。

（1）収集・保存

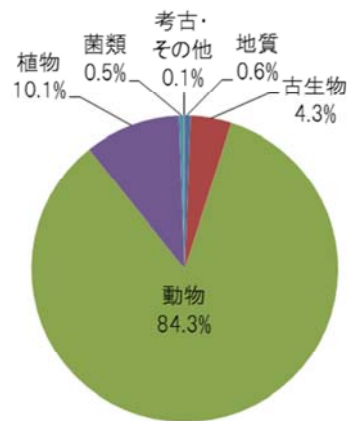
現在までに札幌の自然と人の関わりを探求するための基礎的資料がおよそ 9 万点、収集・保存されています。一方、資料の分野は動植物が 90%以上と偏りがみられます。また、増加する資料を収蔵するためのスペースは限られており、施設の狭隘化も課題です。

■資料数

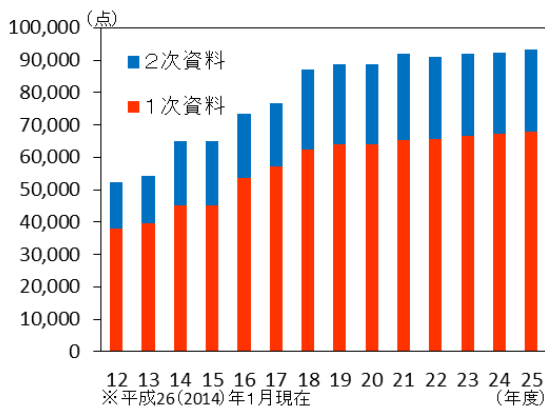
区分	一次資料	二次資料
地質	422	7,888
古生物	2,876	4,966
動物	57,161	0
植物	6,842	12,482
菌類	633	0
考古・その他	45	0
小計	67,979	25,336
合計	93,315	

※平成 26（2014）年 1 月現在。※動物は昆虫を含む。

■一次資料²の内訳



■資料点数（年度別累計）



棚からあふれ、床に並ぶ資料

² 一次資料：実物資料を指す。二次資料とは実物以外の資料（写真、地図、文献、書籍等）をいう。

(2) 調査・研究

「サッポロを知る」「サッポロを結ぶ」「サッポロから広げる」「サッポロによせる」「サッポロを楽しむ」をテーマとし、5大プロジェクト³を実施してきました。サッポロカイギュウの化石を小学5年生の女子が発見（平成14年）するなど、調査には子どもたちをはじめとした多くの市民が参加し、成果をあげてきた実績があります。

■ 5大プロジェクトの取組み

テーマ	具体的な取組内容	H13年度 2001年	14年度 2002年	15年度 2003年	16年度 2004年	17年度 2005年	18年度 2006年	19年度 2007年	20年度 2008年	21年度 2009年	22年度 2010年	23年度 2011年	24年度 2012年
サッポロを知る	藻岩円山植生調査 藻岩山動物生息調査			報告書発行					報告書発行				
サッポロを結ぶ	自然モニター 「札幌市セミ調査」										リーフレット発行、配布		
サッポロから広げる	厚田産ハクジラ化石 大型動物化石総合調査 小金湯産クジラ化石 石狩低地帯クジラ化石群				復元骨格標本作成、報告書発行、 学会報告、論文発表						学会報告、論文発表		出前展示
サッポロによせる	豊平川魚類調査 豊平川水生昆虫調査 豊平川水生植物調査						報告書発行						豊平川さけ科学館と協力し、継続中
サッポロを楽しむ	自然探究サポート事業												各年度、成果展示、公開発表会開催

発見が活動を、その活動が新たな発見を生む札幌の化石

平成14（2002）年まで、札幌からは大型動物の化石が発見されることがありませんでしたが、この年の夏、当時小学校5年生の棚橋愛子さんが豊平川の河床で大きな動物の肋骨を発見し、お父さんに報告しました。翌年の夏、その情報が、博物館活動センターにもたらされ、平成15（2003）年に発掘、平成16（2004）年から3年にわたり「大型動物化石総合調査」を実施した結果、世界最古の大型海牛であることが判明、「サッポロカイギュウ」と命名されました。平成20（2008）年、サッポロカイギュウの発見地点からおよそ300m上流から、今度はクジラの化石が発見されました。発見者の森和久さんは、ウェブで札幌市博物館活動センターがサッポロカイギュウを研究したことを知り、化石を持参。中新世（およそ1000万年前）では最大級のクジラ化石で、学術的に貴重な発見であることが判明し、現在研究が進められています。



発見時のサッポロカイギュウ



発見時の小金湯産クジラ化石

活動が市民に浸透することで発見を生み、発見が新たな活動を生み出すことで札幌の自然の魅力が明らかにされた事例であり、活動こそが博物館の原点であるという好事例です。

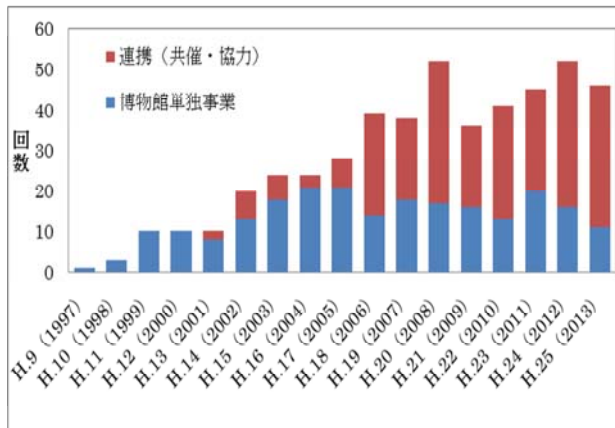
³ 5大プロジェクト：平成13（2001）年に策定された『札幌市博物館計画推進方針』において、開館準備期における活動の指針として設定された5つの重点事業。

(3) 普及・交流

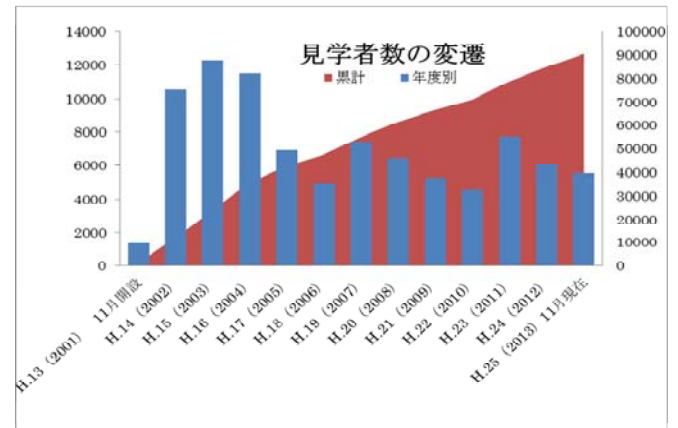
市内様々な場所で行う出前展示など地域に活動場所を広げる事業や、市民グループと連携したフォーラムなどの事業が増えています。また、市民が自主的にボランティアで標本作製を行ったり、科学絵本の読み聞かせのような定期的な催しを企画・実施したりするなど、博物館活動センターが市民の活動の場として利用されるようになってきています。

一方、来場者数が減少傾向にあることや、講座回数は増加しているものの活動センターの学芸員は2名（古生物学と植物学）と少なく、多様な分野や目的に応じたプログラムが行えていないことなどが課題といえます。

① 実施事業回数（年度別）



② 見学者数（年度別及び累計）



科学絵本の読み聞かせと学芸員の井戸端サイエンス

子どもとともに博物館活動センターの行事に参加した母親の発案により始まった取組で、博物館活動センターを会場に、毎月1回異なるテーマの絵本の読み聞かせを行い、あわせて学芸員がテーマに関する実験や観察を交えた解説を行う事業です。



市民グループと連携したフォーラム（サイエンス・コンソーシアム）について

平成22（2010）年度に市民グループ「札幌科学談話会」と札幌市博物館活動センター、札幌市中央図書館が協同で「サイエンス・コンソーシアム札幌」を起ち上げました。

これは、自然科学の「ホットな話題をやさしく・深く・おもしろく」市民に伝えたいという札幌科学談話会から博物館活動センターに企画案が持ち込まれたことがきっかけとなったものです。現在、科学談話会のメンバーが自らの人脈をたぐって講師に交渉し、科学の最新の話題を市民にわかりやすく解説する「サイエンス・フォーラム in さっぽろ」を年5～6回実施しています。



(4) 展示

展示室は、札幌の自然のなりたちを紹介する常設展と企画展のコーナーがあり、企画展では市民が企画した展示を公開するi（アイ）・ミュージアム⁴の取組が実施されているほか、引き出しを利用して遊びの要素を取り入れた展示などもあり、リピーターやファンもいます。

しかし、展示スペースの狭さから団体利用には対応できず、また立地上のわかりにくさもあり、博物館活動センターの認知度自体が低く、市民には浸透していない点が課題です。

⁴ i・ミュージアム：札幌市博物館活動センターで展開してきた市民による持ち込み企画による展示。市民が自然について調査・研究、製作した資料・素材・企画アイデアを持ち込み、学芸員が専門的な面で助言、共に展示製作を行う。「札幌市博物館計画推進方針」に基づき、市民とのパートナーシップを象徴する活動として「出会い・ふれあい・わかちあい」をキーワードに実施。

(5) 活動全般

十分な展示スペースがないというハード上の制約がある中で、市民とともに収集や調査などの活動を広げてきた実績は強みとしてあげられるものの、外国人や障がいのある方などに対する利用しやすさへの配慮は不足しています。

また、周辺の文化施設や観光資源、自然資産などとのネットワークは構築しきれておらず、それらとの連携も十分とはいえません。

さらに、札幌には北海道大学総合博物館や北海道博物館（旧北海道開拓記念館）があるものの、札幌に焦点を当てた博物館ではなく、札幌市民が郷土の自然・歴史・文化について深く学び、札幌を訪れた方にその魅力を十分に伝える場がないという課題もあります。

【表：これまでの博物館活動センターでの活動の強み・課題と今後必要な取り組みのまとめ】

項目		強み・課題	今後必要な取り組み
収集・保存	強み	収集点数の豊富さ	資料の活用に向けたデータベースの構築 保存管理技術者の配置
	課題	収集資料の分野の偏り	札幌の自然・歴史・文化を明らかにするために必要な分野の資料収集技能をもつスタッフの拡充
		収蔵スペースの狭隘化	収蔵環境と収蔵スペースの確保、増設の検討
調査・研究	強み	様々な角度からの体系的な調査・研究	他機関との協同研究の拡大推進
		調査への市民や子どもたちの参画	市民参画のさらなる拡充
	課題	研究分野の偏り	自然史分野を中心に必要な分野の学芸員の配置 フィールドの拡大及び協同研究の推進
		収蔵スペースの狭隘化	収蔵環境とスペースの確保、増設の検討
普及・交流	強み	市民参加型の普及交流活動の精力的な展開	市民参加の拡充、市民ニーズの把握、世代別、目的別等多様なプログラムの創出
		収集活動への市民参加	市民参画のさらなる拡充
	課題	見学者数の減少	魅力的な展示やプログラムを創出し実施する学芸員配置と博物館の整備
		多様な分野や目的に対応したプログラムが提供できていない	普及・交流担当等、専門職員の配置
展示	強み	リピーターやファンの存在	リピーターやファンの拡大、継続した魅力的な事業活動の創出と活動環境の整備
	課題	団体利用への対応ができない	学校等団体対応の可能な施設・体制の整備
		博物館活動センターの認知度の低さ	施設外でのアウトリーチ ⁵ 活動の積極的な展開 PR 活動の活発化
活動全般	強み	ハードに頼らず、活動を広げてきた実績	既存の博物館の概念に捉われない活動の展開
	課題	ネットワーク機能の不足	周辺の博物館関連施設とのネットワークの構築 ネットワークの一拠点としての機能整備
		利用しやすさへの配慮の不足	外国人、障がい者等あらゆる利用者が博物館のサービスを楽しめる環境の整備
		札幌の独自性を知るための博物館がない	札幌市にふさわしい博物館の整備と市民利用の視点に立ったサービスの提供

⁵ アウトリーチ：英語で「手を伸ばす」。公共施設による地域への出張サービス等を言う。本計画では、学校への出張展示等、博物館に接する機会を館外で提供する活動をいう。

2. 急速な社会環境の変化 ～社会的背景～

私たちを取り巻く社会的背景を、国内、札幌市、博物館に分けてまとめました。

(1) 日本国内をめぐる状況

- 東日本大震災や集中豪雨などの自然災害によって人命や文化財等が失われる経験を経て、人と自然との関わり、環境、資源・エネルギーの利用のあり方について、国民全体が強い関心を寄せています。
- 外来生物の影響⁶の顕在化や在来生物との共存など、生物多様性⁷への社会的関心が高まりを見せています。

(2) 札幌市をめぐる状況

- 少子高齢化の進展に伴い高齢単身世帯が増加し、孤立しがちな人が増えることや、地域での付き合いや交流の減少などによる社会との関わりの少ない市民の増加が懸念されており、地域コミュニティの活性化や高齢者の活躍の場づくりなどが求められています。

(3) 博物館をめぐる状況

- 平成18(2006)年の教育基本法の改正により、博物館は、あらゆる世代の市民が交流し、街の魅力を探求し、活力ある地域づくりに参画することで地域の教育力を向上する機能を持つことが期待されることになりました。また、それを担う職員の専門的能力の向上も求められています。
- 教育目的のほかに、文化や観光の役割を持った公立博物館が増えています。

⁶ 外来生物の影響：人間活動に伴い自然分布の境界を越えて、生息域を広げた生物種（外来生物）が、侵入・定着した地域でもともと生息していた種（在来種）の地域個体群の維持や産業等に与える影響（例：在来種を捕食、病原菌を持ち込む、牧草地に侵入し農業の効率を下げる等）。特に影響が顕在化している種類は、外来生物法により特定外来生物に指定されている（例：オオハンゴンソウ）。

⁷ 生物多様性：地球上の生物種とその生息環境の多様さを示す概念。人間活動による環境変化を受け絶滅する生物種は多く、札幌市は平成25(2013)年に「生物多様性さっぽろビジョン」を策定。

3. 札幌博物館の使命

これまでの博物館活動センターの活動の成果と課題、社会的背景を踏まえ、札幌の未来に貢献することを念頭に、札幌博物館の使命と、その実現のために必要なことをまとめます。

使命1：札幌市民としての郷土への愛着と誇りを育む

人と自然との関わりについての関心が高まっていますが、札幌の人と自然については、これまでその全容は明らかになっていません。札幌博物館では、札幌の資料を収集・保存、調査・研究し、その成果を展示などを通して市民に伝え、広げることによって、札幌の自然・歴史・文化の独自性を明らかにし、札幌市民としての愛着と誇りを育てていく役割を担います。

【使命の実現のために】

札幌の独自性を明らかにしていくためには、研究分野の偏りを解消し、収集・保存した資料を、様々な角度から分析していくことが求められます。そのためには、幅広い分野の高い専門性を持った職員が調査・研究を行い、収集した資料を未来に継承していく必要があります。

使命2：創造性あふれる人材の育成

札幌博物館が生涯を通じた学習の場となるよう、市民による自主的な博物館活動を支援し、札幌の魅力を高めていけるような創造性あふれる人材を育成します。

【使命の実現のために】

市民による創造的かつ自主的な博物館活動をより活性化させ、交流を促進させていくには、市民が多くのお会いによって様々な情報や刺激を得ることが必要であり、そのためには、活動の場を札幌博物館だけで完結させるのではなく、市内の関係機関や自然資産など札幌全体へと広げていくことが有効です。そこで、札幌博物館と関係する機関が結びつきを強め、多様な活動を展開するためのネットワークを構築していく必要があります。

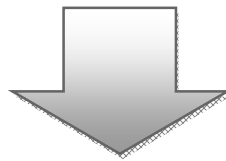
使命3：自然と人の観点からまちづくりに貢献

あらゆる世代の市民が集い、交流する場として、活力ある地域づくりに寄与していく活動拠点となっていきます。また、博物館活動を通じて得た、自然と人との関わりに関する知見を市民みんなで共有し、環境保全などまちづくりの分野に活かすほか、多くの方に札幌の魅力を発信することでにぎわいを創出し、観光資源としての役割も果たしていきます。

【使命の実現のために】

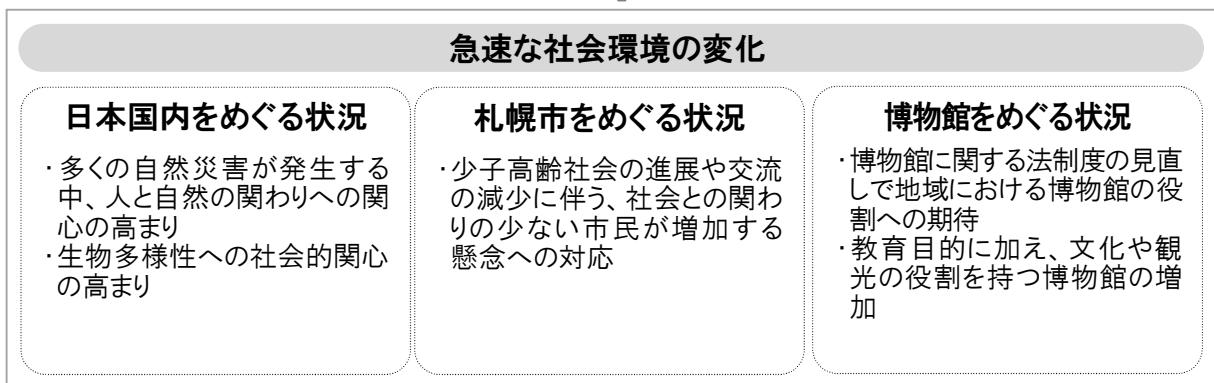
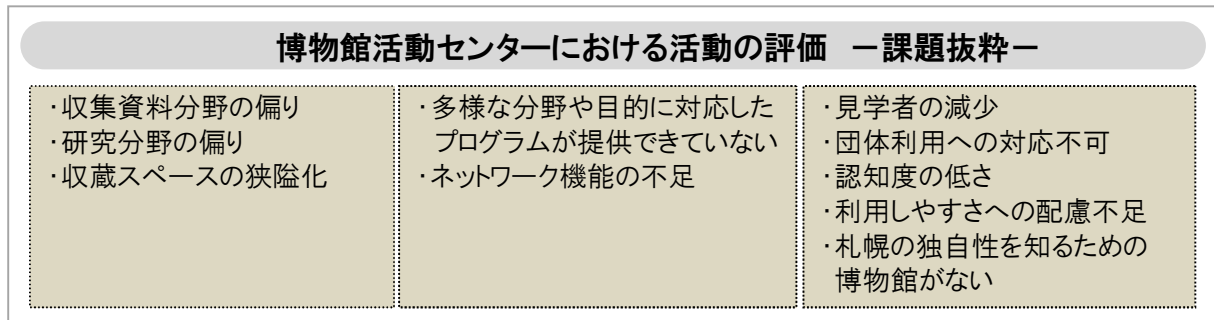
自然と人の関わりに関する知見をより深め、その成果を多くの人々に発信し、にぎわいを生み出していくためには、調査・研究を推進していくための充実した環境と、その成果をダイナミックに伝え、訪れた方に感動を与えることのできる機能を併せ持つ、新しい拠点が必要です。

これらの使命を追求していくために

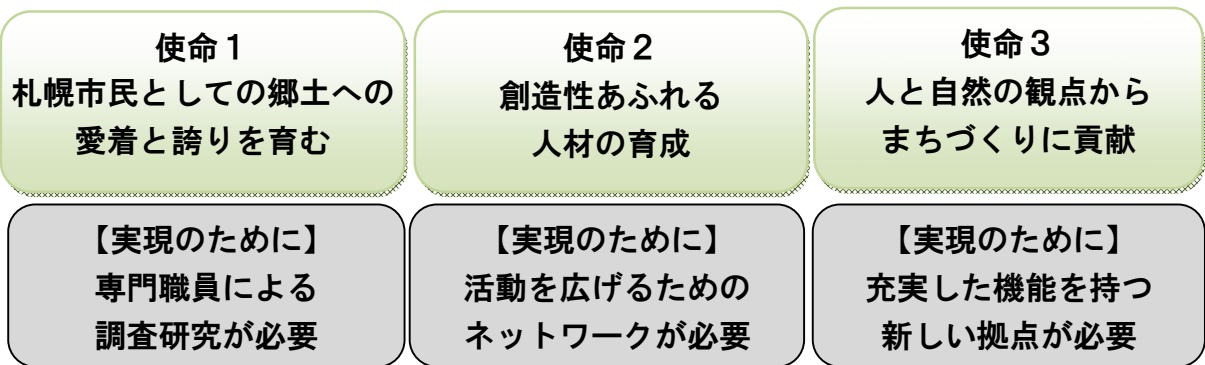


市民みんなで、
札幌の「自然と人の関わり」を探究し、
札幌の未来に向けて進化・発展し続ける博物館が必要

【第1章のまとめ】



札幌博物館の使命



これらの使命を追求していくために

市民みんなで、札幌の「自然と人の関わり」を探究し、札幌の未来に向けて進化・発展し続ける博物館が必要

第2章 札幌博物館の基本テーマと対象領域

ここでは、札幌博物館の基本テーマと対象領域をまとめています。

1. 札幌博物館の基本テーマ

北・その自然と人

平成8（1996）年度、札幌市博物館基本構想委員会から、基本テーマ「北・その自然と人」が示されました。このテーマは、札幌市が“日本列島の北に位置すると同時に、地球規模で見ると北と南の接点ともいえる中緯度にあること”、“北と南の要素がどのように出会って交流してきたのかが、札幌の自然と歴史と文化の独自性を生み出した重要な要素であること”を理由に設定されたものです。

このテーマは、平成10年の「札幌市博物館基本計画」、さらに、平成13年に策定した「札幌市博物館計画推進方針」にも引継がれ、博物館活動センターにおいてもこのテーマに沿った活動を実施してきた結果、サッポロカイギュウなど札幌の独自性を明らかにする発見につながりました。以上を踏まえ、札幌博物館においても基本テーマとして引継いでいきます。

【北とは】

札幌は北国というイメージがありますが、地球規模では北極と赤道のほぼ中間、北緯43度に位置します。中緯度は、寒冷的な環境、温暖な環境それぞれに適応した生物が共存する地域であり、極端に寒い「極」や暑い「赤道」に比べ、はっきりとした四季の変化や多様で豊かな自然と環境と生物が見受けられます。

【札幌の自然】

札幌の位置する石狩低地帯は、日本海とオホーツク海が拡大し、太平洋海洋底がその下に沈み込むことによって形成された国内でもほかに例を見ない形成史をもちます。

また、札幌は、日本でも有数な急流である豊平川によって形成された扇状地を中心に開けた街で、国内に存在する500余りの扇状地の中でも、100万人を超える人が住む扇状地は札幌以外にはありません。

【札幌における人とは】

札幌における「人」は、およそ2万年前の氷期の終わりころ、ユーラシア大陸と北海道の間にある海峡が、寒冷期に海水面が下がり地続きになったシベリア方面からサハリンを陸伝いに進入してきたグループです。これらのグループにより歴史形成されたことで、本州以南と異なる文化を形成しました。

その後、江戸末期から明治にかけて急速に行われた調査や開拓の中で、札幌は北海道の主都として街が形成され、日本全国から集まった様々な人々によって形作られた国内でも特異な歴史と街並をもっています。

2. 札幌博物館の対象領域

札幌市内には、北海道大学総合博物館や北海道博物館（旧北海道開拓記念館）が存在し、それぞれの博物館にはその設置にあたり、その使命と役割が規定されています。

北海道大学総合博物館は、大学創立以来からの膨大な学術標本の整理・保管と学際的研究分野を開拓することを特徴とした博物館です。

また、北海道博物館（旧北海道開拓記念館）は、北海道における総合的な博物館、道内博物館の中核となる施設として、人間史やアイヌ文化を保存・伝承し、未来に活かすことを特徴とした博物館です。

一方、札幌博物館では、自然史の視点から札幌の自然、歴史、文化に関する札幌の独自性を市民と共に明らかにしていくことで、札幌市民としての郷土への愛着と誇りを育み、創造性あふれる人材を育成し、人と自然の観点からまちづくりに貢献することに重点を置きたいと考えています。

また、常に市民とともに活動を続け、新たな発見をすることで、博物館活動の質とその魅力を高めていく、市民とともに「進化」、「発展」する博物館を目指していきます。

3館それぞれの役割分担については北海道大学総合博物館が開設された平成11（1999）年以降、これまで話し合いを続けており、今後も3館で協議を続けながら、それぞれの特色を明確にした活動を展開していくことを確認していきます。

市内大規模博物館と札幌博物館の比較

	札幌博物館	北海道博物館	北海道大学総合博物館
領域	石狩低地帯形成の1億3千万年	人間史を中心とした120万年	開学140年の研究成果
特徴	・自然史の視点から札幌の自然、歴史、文化を明らかにする「自然史系博物館」	・人間史の博物館 ・アイヌ文化を保存伝承し未来に活かす博物館	・学術標本の活用と学芸員研修や研究活動への援助を通じた博物館に貢献する「大学博物館」
使命	1 札幌市民としての郷土への愛着と誇りを育む 2 創造性あふれる人材の育成 3 人と自然の観点からまちづくりに貢献	1 博物館としての基本的機能の充実 2 北海道における総合的な博物館 3 道内博物館の中核となる施設	1 学術標本の管理・整理、次世代への継承と情報の提供 2 学術資料を用いた学際的研究分野の開拓 3 展示・セミナー等を通じた教育普及活動 4 博物館文化の創造と発信
対象	市民や札幌の観光客など ・市民にとっては札幌の独自性を総合的に学ぶ唯一の場であり、観光客などの来訪者にとっては札幌の魅力を味わい楽しむ施設	道民 ・特定の地域や人ではなく、北海道と道民が対象	学生・研究者 ・高等教育機関の博物館として学生・研究者への情報提供が中心
基本テーマ	北・その自然と人	北東アジアの中の北海道	モノ・コト・ヒトをつなぐ
展示テーマ	札幌の独自性5つのサブテーマ 1 さっぽろの自然景観の形成 石狩低地帯の形成と札幌の山、川、台地の形成史 2 さっぽろの生命と生物の進化 札幌産出の化石から見る生物の進化 3 さっぽろの自然と人類の共生 札幌の生物多様性と人々の暮らし 4 さっぽろの交流史 気候変動に伴う環境と文化の交流 5 さっぽろの形成史 札幌の街並を形成した自然背景を歴史や人物とあわせて紹介	プロローグ 1 北海道120万年物語 ナウマンゾウ、マンモスゾウ。北海道に生きた人 2 アイヌ文化の世界 アイヌの口承文芸、伝承文化、暮らしと意識 3 北海道らしさの秘密 明治、大正、昭和を経て作られた北海道らしさ 4 わたしたちの時代へ 戦争、開発、自然保護など人と自然の関係 5 生き物たちの北海道 生き物同士のつながりを、生態系ごとに紹介	学術テーマ展示・知の統合 生き続ける札幌農学校精神 実学の精神 ロフティアンビションの系譜 知との対話 知との統合 循環から見る自然と人 生命／多様性と普遍性 人間・社会・自然と科学技術 北を見る目・北から見る目

第3章 事業活動計画

ここでは、事業活動の考え方と内容について整理していきます。

1. 事業活動の考え方

札幌博物館は、「北・その自然と人」を基本テーマとし、市民とともに自然史の視点から札幌の独自性を明らかにしていく「自然史系博物館」としてその活動を進めていきます。館の使命と役割を明確にし、活動の地域とテーマを、札幌を中心に絞ることによって、施設、設備、人員を限定し、同時に自然史の分野に重点を置くことにより他館との差別化を図ります。

一方で、「札幌」、「自然史」以外の分野については、既存の他施設などと役割分担を行い、相互の特徴を生かしつつ、補い合う「博物館活動のネットワーク」を形成することにより対応していきたいと考えています。

2. 事業活動の構造

「活動拠点（コア）」と「つながり起点（サテライト）」

上述のとおり、札幌博物館では、博物館活動を札幌博物館の中だけで完結させるのではなく、様々な関係機関等との連携を強化することで博物館活動を札幌の街全体へと広げていきたいと考えています。そのため、事業活動の展開をしていく上では、博物館内で行う取組に加え、博物館の外での取組も重視していきます。

本計画では、札幌博物館を「活動拠点（コア）」と呼び、「活動拠点（コア）」とともに活動を広げていく既存の施設などの連携先を「つながり起点（サテライト）」と呼び、様々な取り組みを推進していきます。

なお、「つながり起点（サテライト）」については、大きく下記のように分類できます。

(ア) 博物館・研究機関等

(例) 北海道大学総合博物館（北区）、北海道博物館（旧開拓記念館。厚別区）等

(イ) 教育機関

(例) 市内の幼稚園、小中学校・高校、大学 等

(ウ) 地域の歴史や文化の拠点

(例) 清華亭（北区）、屯田郷土資料館（北区）、札幌村郷土記念館（東区）
手稲記念館（西区）等

(エ) 自然・歴史・文化の足跡をうかがい知ることのできる地域の資産

(例) 藻岩山（南区）、石山緑地（南区）、手稲山（手稲区）等

3. 活動拠点（コア）における事業展開

活動拠点（コア）では、市民とともに札幌の自然を探求していく過程で市民が身近な自然に関心を向け、そのことがサッポロカイギュウのような新たな発見に結びつき、そこから発展した新たな博物館活動が、さらなる発見を生み出していくというような好循環を生んでいく活動を目指します。そうした好循環を生み出すために、活動拠点（コア）では、「感動伝達（エモーション）」「地域課題解決（ソリューション）」「つながり創出（リレーション）」の3つの事業を柱として、相互に関連させながら展開していきます。

（1）感動伝達事業（エモーション事業）

感動伝達事業は、切り口の異なる様々な展示と、多様な講座や体験事業など学芸員によるきめ細かな対応によって、訪れた方々に札幌の自然史の魅力を伝える事業です。市民にとっては郷土の成り立ちを、市外からの来訪者にとっては札幌独自の魅力を知ってもらい、感動を与えることを目指す、「博物館の顔」となる事業です。

① 事業の基本的な考え方：“本物”の迫力や魅力を伝える

札幌の自然史をより実感してもらえるよう、サッポロカイギュウの実物大の骨格標本など、「本物」の迫力や質感にこだわった展示を行います。さらには、企画展などを通じて随時新しい情報が得られるようにするとともに、館職員が利用者の興味に応じた解説をしたり、館内や地域で行われている具体的な活動を紹介したりするなどのきめ細い対応を行うことで、何度でも足を運んでもらうことを目指します。

また、化石のレプリカ作製による復元組立作業や樹脂加工による標本作製作業など、博物館で日常的に行われている学芸員や市民の活動も展示の一部として公開していきます。

博物館で造られたサッポロカイギュウ

北海道で化石のレプリカが最初に作られたのは、1980年のタキカワカイギュウの発見がきっかけでした。研究者が持っていた技術を、市民自らが新たな手法を工夫して作製技術を進化させていきました。現在展示中のサッポロカイギュウのレプリカは、その技術を受け継いだ沼田町化石館のスタッフによって制作されています。札幌においても、札幌で新たに発見された資料を市民のアイデアで次々とレプリカにして、展示していくことができるかもしれません。



② 事業の構成

展示構成は、基本テーマ「北・その自然と人」のシンボルとなるようなエントランス展示や、札幌の独自性を示す5つのサブテーマ展示、さらに市民との協働の成果などを取り上げた企画展で構成します。また、博物館の外でも札幌の独自性に関する情報を得られるよう、ウェブやスマートフォンのアプリなどを使ったユビキタス⁸展示も検討していきます。

⁸ ユビキタス：いつでも、どこでも、だれでも恩恵を受けることができる環境やそれを可能する技術・システムのこと。本計画では、コンピューターや情報端末を用いて博物館の情報を配信するしくみを指す。

札幌博物館の展示構成

エントランス展示・ポータル展示

博物館の入口付近のエントランス展示として、体長7mのサッポロカイギュウや推定体長15mの小金湯産クジラ化石の骨格復元⁹標本などを展示し、来館者が思わず足を止めて見入ってしまうような空間にしていきます。また、博物館活動を進めていく過程で、札幌博物館の核となりうるような新たな発見があった場合には、そういったものも展示できるようなスペースになります。



さらに、エントランス展示の少し奥に位置するポータル（玄関）展示では、博物館の展示概要をパネルで紹介するとともに、札幌の歴史・文化に関する施設や講座に関するパンフレットなどを配架するなど市内の情報検索が可能なブースを設置します。

さっぽろの独自性を示す5つのサブテーマ展示

札幌の独自性や魅力を伝えるため、基本テーマ「北・その自然と人」に基づいた、札幌の自然・歴史・文化の独自性を5つのサブテーマで構成し、様々な手法を用いて展示します。

＜サブテーマと展示の例＞

(1) さっぽろの自然景観の形成

- ①石狩低地帯が形成される1億年をアニメーションで紹介
- ②札幌の山や川や台地の形成過程を映像化

(2) さっぽろの生命と生物の進化

- ①生命の誕生から人類までを代表的な岩石と化石で解説
- ②札幌で世界が注目する化石が産出する理由を映像化

(3) さっぽろの自然と人類の共生

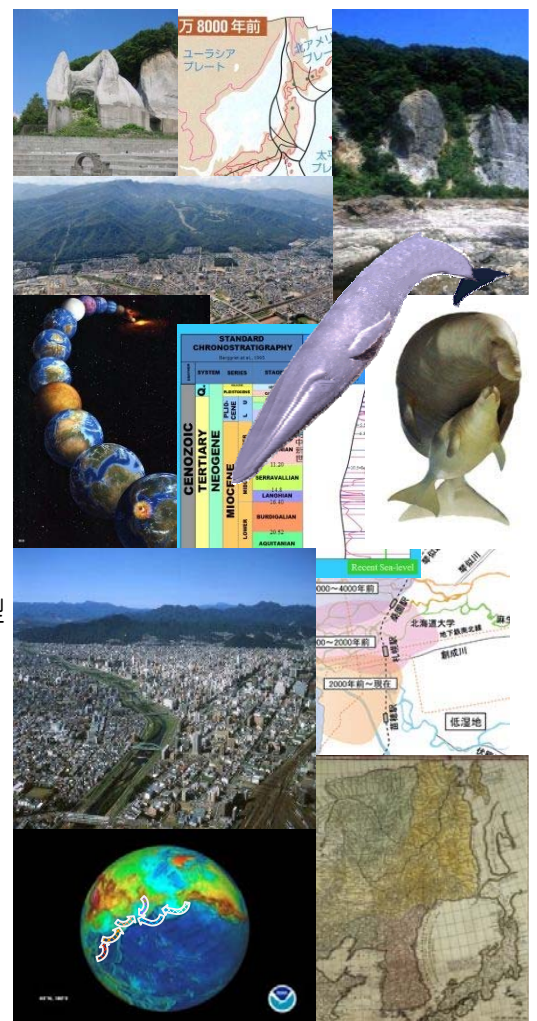
- ①豊平川の氾濫によって形成された扇状地形成過程と立体模型
- ②自然と共生した暮らしを自然史の視点で展示

(4) さっぽろの交流史

- ①札幌の「北方系」「南方系」の自然と文化に関する展示
- ②札幌独自の文化形成に関わる自然背景を紹介

(5) さっぽろの形成史

- ①札幌の街の歴史と自然環境との関わりを紹介
- ②札幌の街並形成の過程をジオラマ展示



⁹ 復元：元の位置や形態に戻すこと。失われた部分を推測に基づいて当時のように再現する。なお、文献や材料等が残っており、確かな根拠に基づいて元の状態や環境を再現する場合は「復原」と表現する。

「寒さ」という自然が引き金となった札幌の街づくり

14世紀～19世紀ごろ、世界中を寒波が襲い、ヨーロッパにおいて毛皮と薪の需要が高まりました。その主要な供給国であったロシアは、毛皮と薪を調達するため国内を東進し、やがてオホーツク海を超えて蝦夷地で新たな販路を切り開こうとします。

一方、日本に押し寄せた寒波は大飢饉をもたらし、新たな開墾地と寒さに強い農作物が求められることになりました。そこで江戸幕府による蝦夷地の探索が始まります。

やがて日本とロシアは蝦夷地を巡って争います。このことが、蝦夷地の領有を主張する江戸幕府の開拓を急がせ、大友亀太郎の開拓や松浦武四郎の蝦夷地探検、島義勇の札幌建設に繋がっていきます。

このように、「札幌の形成史」にも自然や環境は深く関わっており、札幌博物館は自然を切り口にしながら札幌のまちの歴史や人物の営みに迫っていきます。



収蔵展示(ミドルヤード展示)

エントランス展示やポータル展示、サブテーマ展示を博物館と市民が直接接触する「フロントヤード」、博物館資料を安全に保管する収蔵庫を「バックヤード」と呼ぶのに対し、展示と保管の両方を兼ねるエリアを「ミドルヤード」と呼びます。

ミドルヤード展示では、札幌に自生、生息する植物や昆虫など現在博物館が収蔵している生物の標本をすべて展示し、さらに、随時新たに採取された標本を追加していくことによって、札幌の自然の現況と生物多様性がリアルタイムで実感できるものにします。



企画展示

札幌の独自性を示すテーマで定期的に企画展示を開催するほか、現在博物館活動センターで実施している、市民が自ら集めた資料などを市民の企画で展示、公開するi(アイ)・ミュージアムの組も継続します。

また、道内外の博物館の巡回展や民間企業などとの共催による大型の特別展なども受け入れて開催します。



【i・ミュージアムの活動例】
小中学生対象の自然探究サポート事業。
子供自らが研究成果を展示で伝えた。

ユビキタス展示

インターネット配信などを使って博物館の情報を場所・時間を問わず利用できるしくみをつくり、これをユビキタス展示と呼びます。

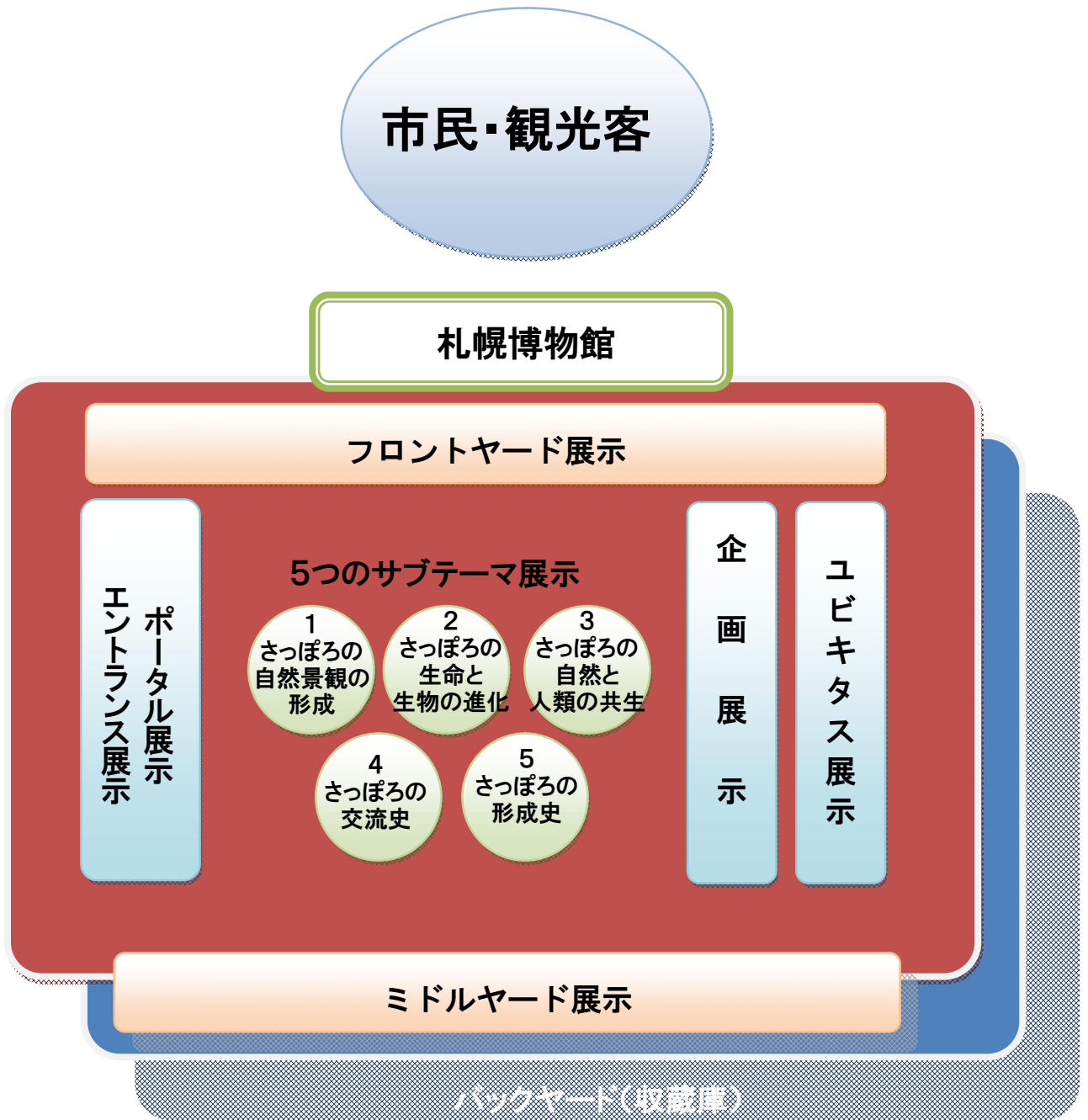
＜ユビキタス展示の例＞

- ・インターネット上で博物館を模擬的に見学できるソフトの提供
- ・博物館で実施された講演会や資料解説などをインターネットでライブ配信
- ・市内のとある風景にスマートフォンのカメラをかざすと昔の風景映像が重なって表れるAR¹⁰コンテンツの配信



¹⁰ AR：英語で Augmented Reality の略。人間が知覚できる現実環境をコンピュータ等により情報を付加して提示する技術、または拡張された現実環境そのものを指す。野外でスマートフォンを通して見た風景の画像の上にその場所に関する情報が重なって表示されるプログラムや、カーナビの機能、携帯型ゲーム機の機能に応用が始まっている。

【札幌博物館での感動伝達事業の構造（概念図）】



(2) 地域課題解決事業（ソリューション事業）

地域課題解決事業は、札幌の独自性を明らかにする資料の収集・保存、調査・研究などによって得られた地域の自然・歴史・文化に関する成果を蓄積し、市民にわかりやすく発信することで、地域の身近な課題について、その解決策を市民とともに探っていく事業です。

① 収集・保存

- 札幌ならではの特色ある資料を幅広く収集するため、関係機関との連携や市民との協働など、これまでの活動を継続、拡充します。
- 収集した資料は適切な環境で保存し、未来に継承していきます。

② 調査・研究

- 市民との協働により推進してきたこれまでの調査・研究活動を継続、拡充するとともに、多分野にまたがる総合的なテーマの研究については、他の博物館や関係機関とも連携を図りながら進めていきます。
- 藻岩山や豊平川に関する自然調査など、市民の日常生活や地域性のあるテーマの調査・研究を推進します。
- 他機関で実施した環境調査¹¹、ボーリング調査¹²等で得られた資料を、必要に応じて譲り受け、研究に活用していきます。

③ 成果の発信・活用

- 資料を体系的に管理するため、データベース化や調査報告書の作成を行い、それを公開することで、広く研究の成果が活用されるしくみを整えます。
- 自然環境保護などの分野において博物館の知見が活かされるよう、行政や研究団体などの関係機関に対して、博物館での研究で得られたデータ等の提供や、データ分析にかかわる助言を行うほか、協同での研究も推進します。

博物館に集まる情報を使って解決する

外来生物とは、本来は生息しない地域に人間によって持ち込まれ、野外で繁殖してしまった生物で、もともとその地域にいた生物の生息地を奪うなどの影響を与えることから、近年大きな社会問題となっています。札幌市博物館活動センターでは5大プロジェクトの1つとして2000年から3年かけて「藻岩円山の植生調査」を行い、2005年に報告書をまとめました。

その成果によると、外来生物法で特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウを含む外来種の割合が20%で、1992年の文献と比較すると約11年間で約5ポイント増加したことがわかりました。このように調査結果の数値や変化の傾向を示すことで、より多くの市民に外来種が増えていることや札幌の現状を理解してもらえます。そして、市民とともに問題解決の方策を考え、実践するきっかけにもなります。例えば、円山動物園内の「動物園の森」では、オオハンゴンソウなど繁殖力の高い外来種が繁茂して他の植物が生えられない等の「手遅れ」の状態になるのを食い止めるため、市民ボランティアと専門家が協力して外来種の除去を定期的に行っています。



¹¹ 環境調査：環境アセスメント等の目的で民間業者が行う。主に動物（昆虫類、魚類含む）、植物が調査される。

¹² ボーリング調査：地質調査の一種。地層中にパイプをさして、柱状の試料を採取し、過去の堆積物等を解析する。

(3) つながり創出事業（リレーション事業）

つながり創出事業は、感動伝達事業や地域課題解決事業を行う中で得られた成果や、生まれてきた活動を、博物館だけではなく、街全体に広げていくために、「活動拠点（コア）」としての札幌博物館と「つながり起点（サテライト）」としての関係機関がネットワークを結び、そこに市民参画を促していくことで活動を広げていく、他の博物館では見られない新しい試みであり、本計画の中でも特徴的な事業の一つです。

各活動へ、市民や関係機関が関わることにより、新たな事業や企画が生み出されることにつながり、博物館活動をより活発なものにしていきます。連携していく対象は、例えばこれまでに連携してきた北海道大学総合博物館や北海道博物館（旧北海道開拓記念館）をはじめ、これまで比較的博物館活動と連携の少なかった幼稚園などもその対象としていくことで、幅広い施設や人とのつながりを創出し、博物館利用の定着を図ります。

① 「つながり起点（サテライト）」との協働により事業を展開

つながり創出事業では、「つながり起点（サテライト）」となる各施設等と連携して企画・プログラムを作成し、提供していきます。「つながり起点（サテライト）」がネットワークの起点となると同時に地域における活動展開拠点としても機能し、札幌博物館で行われた活動の成果を市内全体に広げる役割を果たします。

博物館活動センター、円山動物園、北大総合博物館の連携例

札幌博物館の活動範囲は札幌市を含む石狩低地帯であり、広範囲にわたって事業を展開していくためには、博物館同士の連携が欠かせません。その試みとして平成24年度から札幌市、石狩市、小樽市、北広島市にまたがる合計14施設（平成26年現在）が連携するCISE（ちせ）ネットワークという活動を行っています。

例えば化石をテーマとした事業では、札幌市博物館活動センターで化石の発掘を実際に体験し、骨から推定できる動物の動きを円山動物園で観察し、北大総合博物館で化石の研究方法について学習するといった各施設の特徴を生かした、切り口の異なる複数の事業を展開することで、市民は一つのテーマをより深く楽しみながら学習することができます。



博物館が協力したつながりがひろがり、自主的な活動が発展

「つながり起点」のひとつである西岡公園では、植物調査を市民の手で行うための市民植物調査員養成講座（主催：西岡公園管理事務所）に学芸員が平成19（2007）年度に協力し、植物調査と標本作製方法の考え方や技術を伝授しました。植物調査に楽しみを見出したメンバーは、現在も西岡公園で計画的に調査を続けるほか、個人単位では野幌森林公園の植物について独自に調査を始めるまでになっています。札幌市博物館活動センターの専門的サポートにより、市民が地域の生物多様性について関心を持ち、自分の住む地区の課題に取り組み、活動の範囲を広げた事例といえます。



② 市内の資産をめぐり、本物を体感するプログラムの提供

例えば自然災害の痕跡など、自然の営みが今でも直接見て取れる場所も「つながり起点（サテライト）」と位置付けた上で、活動拠点（コア）である札幌博物館や「つながり起点（サテライト）」を発着点としてそれらを巡り、博物館ならではの視点でガイドする“ツアーミュージアム”を定期的実施します。これにより、札幌博物館での展示だけでは得ることの出来ない“本物ならではの”体験や学びを提供します。

ツアーミュージアム（例）「豊平川の流れから札幌のなりたちを探る」つながり起点：天神山

天神山は、“古豊平川”が今からおよそ4万年前に噴出した火山灰（支笏火砕流）を削り残した丘で、その西を流れる精進川は、古い扇状地を削った豊平川の名残りです。

「豊平」の語源となった「トイ・ピラ＝崩れやすい・崖」に沿って環状通まで歩き、南19条橋から現在の豊平川を渡り、左岸を北上した後、中島公園で200年前まで、かつての豊平川本流であった伏籠川の名残と考えられる鴨々川と、水路として利用された堰を見学し、豊平川が札幌の自然や歴史を形成した経緯を解説します。

札幌の自然・歴史・文化を実際に歩いて見て回ること、知的好奇心が刺激され、しかも健康増進にも貢献できるプログラムです。



精進川沿いに続く「トイ・ピラ」の崖

③ コピキタス展示の活用により資産と人をつなぐ

感動伝達事業で展開するコピキタス展示を、市民や観光客が自然資産等を巡る際のサポートとして活用していきます。例えば、スマートフォン等のモバイル端末を使うことによって、目の前にある自然資産の情報をいつでも手軽に調べられるコンテンツなどを検討します。コンテンツ作成の際には、外国人観光客の利用も想定し、多言語に対応していきたいと考えています。

モバイルお散歩ミュージアム

札幌市内には100ヶ所（札幌市博物館活動センター選定）を越える自然資産、歴史資産、文化資産が点在しています。これらの資産は現地に保存された実物標本と考えることができます。

スマートフォンなどの個人の情報端末を利用し、それぞれの資産までのルートを示し、現地ではそれぞれの資産に関する様々な情報を多言語で提供することで札幌の街を一人でも、グループでも楽しむことのできる情報を配信します。

あわせて近くのレストランやショップなどの情報も提供し、札幌を楽しく歩くことのできる情報の提供も検討します。



④ 将来的な国内外の諸都市との交流・連携

札幌市はポर्टランドやミュンヘン等、5つの都市と姉妹・友好都市提携をしていますが、これらの都市は札幌と緯度が近く、自然史を探求する上で新しい成果を得ることにつながると考えられることから、こうした都市との将来的な学術交流・連携についても検討していきます。

また、札幌市はユネスコの創造都市ネットワーク¹³の「メディアアーツ部門」に加盟しており、国内外の加盟都市同士の連携が想定されることから、博物館についても、メディアアーツの視点を取り入れた展示等の導入を検討していきます。

¹³ユネスコ創造都市ネットワーク：平成16（2004）年にユネスコが創設した映画、デザイン等7つの分野において特色ある世界の都市を認定するプロジェクト。札幌市は平成25（2013）年にメディアアーツ分野に加盟した。

4. ネットワーク型ミュージアムのしくみ

札幌博物館では、これまで博物館活動センターが構築してきたネットワークを基礎として、札幌博物館の整備や、新たなつながりを創出する事業などをきっかけとして、新たな「つながり起点（サテライト）」を増やし、ネットワークを拡充していきます。

「活動拠点（コア）」の展示や事業で感動し、「つながり起点（サテライト）」を通して博物館活動が街全体に広がっていくという「人とつながり 街にひろがるネットワーク型ミュージアム」を目指します。

（１）[第1段階] 人が出会い、人とつながる

感動的な展示や親しみやすい解説などを通じて、札幌博物館に人々が何度も足を運びたいくなるような体験や交流の場にしていきます。人々が何度も博物館に足を運ぶ過程で、同じ興味・関心をもつ人と人が出会い、相互に情報を分かちあう機会が増え、世代を問わず人と人がつながる場になっていきます。

（２）[第2段階] グループが活動する

人と人が出会い、つながる中で生まれたグループによる博物館活動を、札幌博物館では活動の場や器材・情報の提供、協働による調査・研究などを通じて、積極的に支援していきます。また、札幌博物館がもつネットワークを利用して市民の活動がより幅広く展開するよう後押ししていきます。

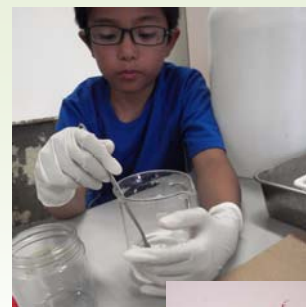
（３）[第3段階] 活動が街にひろがる

様々な活動の成果を得たグループや個人が、札幌の街全体をフィールドに多彩な活動が展開できるよう、札幌博物館が新たなネットワークを構築する「つながり創出事業」を展開し、個人やグループの活動をさらに広げていきます。

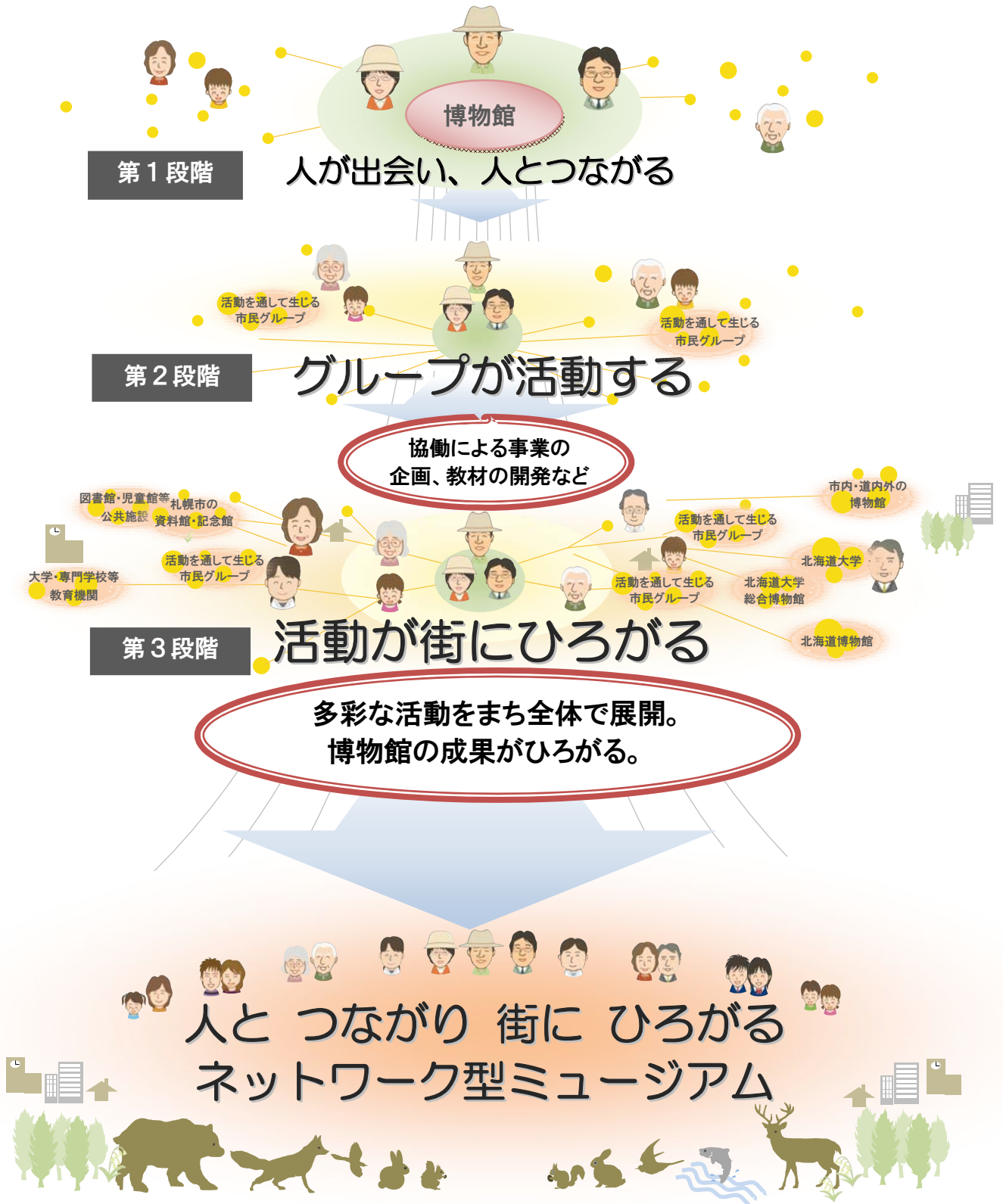
研究のサポートから博物館資料の作製へ

5大プロジェクト「自然探究サポート事業」に応募のあった「カエルの手足は、いつ、どのようにできるのか?」という小学5年生(当時)の疑問について、博物館活動センターでは透明骨格標本作製してカエルの発生の過程を観察することを提案し、一緒に研究をしました。彼はお母さんとともに活動センターで標本作製技術を習得し、さらにその技術を向上させていきました。

研究の成果は透明骨格標本とともに博物館活動センターで公開されました。展示されている標本を見て関心を寄せた来館者に、製作した二人が、その作製方法などを伝えているうちに、興味のある市民がロコミなどで増えていき、やがて標本・教材製作サークル・ボランティア「えぞホネ団」がたち上がりました。えぞホネ団は、現在でも博物館で使用する様々な標本の作製活動を行っています。



【人とつながり、街にひろがるネットワーク型ミュージアム（概念図）】



第4章 施設計画

ここでは、札幌博物館の施設整備について整理していきます。

1. 札幌博物館の候補地

札幌博物館は、市民とともに札幌の独自性を明らかにし、その成果を多くの人々に伝えていくことを目指しています。その目的を達成するためには、①できるだけ市民が集いやすく、観光客が来訪しやすい場所にあること、②札幌博物館の基本テーマである「北・その自然と人」を実感できる環境が周辺にあること、③前章で述べた3事業を展開するために必要な規模（広さ）を確保できること一が立地条件になると考えています。

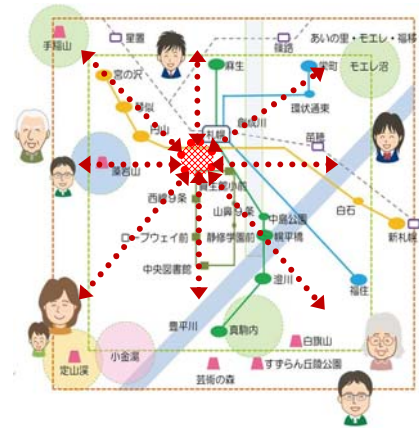
市民・観光客が訪れやすい場所としては、地下鉄札幌駅・大通駅やその周辺地域などの都心部が考えられます。さらに都心部には、地下鉄、市電を利用して「つながり起点（サテライト）」にアクセスしやすいという利点もあります。

また、札幌駅から大通駅、その周辺の西11丁目駅近辺には、かつて豊平川扇状地の湧水（メム）があり、札幌の自然史を垣間見ることができるという特徴があるほか、札幌市資料館（大正15年建設、国の登録有形文化財）や大通公園など、札幌の成り立ちを実感できる歴史・文化資産もあります。大通公園の周辺は、「さっぽろ都心まちづくり戦略」（平成23年1月策定）において「札幌らしさを象徴し、人々の多様な活動を支える空間」とされていることから、札幌博物館の設置に適した地域であると言えます。

さらに、この地域には、将来的に閉館・解体予定となっている「さっぽろ芸術文化の館」があり、跡地活用を図る場合には、その敷地面積は約11,000㎡と、事業展開していく上で十分な広さがあります（必要と想定される規模については後述）。

以上のことから、本計画においては、先に述べた立地条件を揃えている、「さっぽろ芸術文化の館」がある「北1条西12丁目街区」を、札幌博物館の候補地として位置付けます。

なお、施設整備に当たっては、札幌市全体のまちづくりを見据え、有効かつ高度な土地利用を図る観点や施設の集客力向上の観点から、他の公共施設等との複合化を含めて検討していきます。



2. 札幌博物館の諸室整備

札幌博物館で行う、感動伝達事業、地域課題解決事業、つながり創出事業は、相互に関連して展開することでより高い効果が見込めます。そのため、札幌博物館の諸室は、この3つの事業を効率的に展開できることを念頭に、機能・配置を検討していきます。

また、ユニバーサルデザイン¹⁴や自然環境への負荷の軽減に努め、市民がくつろげる、潤いのある空間を目指します。

¹⁴ ユニバーサルデザイン：文化・言語・国籍・年齢・性別・障がい・能力等に関係なく利用できるデザインの思想。

①感動伝達領域

(展示エリア)・・・常設展示室、企画展示室、特別展示室 等

いつ来ても新しい発見のある展示を目指し、展示内容を容易に更新できる、可変性を重視した構造や設備を検討します。特定のテーマを特集する企画展示室や、民間企業との共催による大規模な特別展示にも対応可能な展示室も整備します。

高齢者や障がいのある方、外国人も楽しめるよう、触れる展示や、点字・多言語による解説などを取り入れるほか、配色、照明等にも配慮します。

(普及・交流エリア)・・・講義室、実習室、講堂、作業室 等

市民が博物館で自主的な活動を十分に行えるよう、講義や作業、実習に必要な諸室や設備を整えます。

②地域課題解決領域

(収集・保存エリア)・・・収蔵庫、特別収蔵庫 等

資料を安全に保管できる適切な環境を確保した収蔵庫を整備します。

また、活動の継続とともに資料が増加し収蔵庫が狭隘化してくることも想定し、将来的な収蔵スペースの増設にも対応できる設計を検討します。

(調査・研究エリア)・・・研究室、標本検査室、洗浄処理室 等

専門的な調査・研究活動に対応できる諸室や設備を整備します。調査・研究の利便性を確保するため、収集・保存エリアと隣接した位置に設置します。

③つながり創出領域

(エントランス・交流エリア)・・・図書閲覧室、ミュージアムショップ、カフェ 等

エントランスには思わず足を止め、見入ってしまうような大型の展示物や最新の情報を提示することで博物館の活動が見えるスペースを用意し、必ずしも博物館を目的にしていたわけではない方も、思わず立ち寄ってみたくなるようなにぎわいの演出を施すとともに、カフェなどを設置して気軽に休憩・交流できる空間をつくります。

例えば、市民からの要望も多い、エントランス展示を観ながらくつろぐことができる「ミュージアムカフェ」や、サッポロカイギュウにまつわる商品など、札幌市立大学などと連携し札幌の独自性をあらわす展示物に関するグッズなどをデザイン制作し、販売する「ミュージアムショップ」などの設置を検討します。

このほか、感動伝達領域や地域課題解決領域もつながりを創出する重要な場となります。

④管理・その他領域

(管理・共用その他エリア)・・・事務室、会議室、機械室 等

上記の諸活動を支える建物や敷地等の維持管理に必要な諸室や設備を整えます。

3. 札幌博物館の規模

札幌博物館の規模については、体長7mのサッポロカイギュウ及び推定15mに達する小金湯産クジラ化石など、複数の大型動物化石の復元標本を展示することが可能な展示スペースや、市民や観光客の憩いの空間あるいは情報提供の場となるサービススペースを広く取る必要があると考えています。

なお、政令指定都市と政令指定都市のある都道府県立の博物館に関するデータは資料7に掲載しておりますが、そのうち、特に札幌博物館の参考となるような、最近開設またはリニューアルした自然史系博物館の延床面積は、下表のとおり10,000～17,000㎡となっています。

今後は、展示の内容や館内で行われる諸活動について、さらに詳細を詰めていく中で、それに合わせた規模や諸室などを検討していきます。

【参考：類似施設の諸室面積の割合】

館名	開館日	延床面積	展示	収集・保存	調査・研究	普及・交流	サービス	管理	共用・その他
北九州市立 いのちのたび博物館	平成14(2002)年 11月3日	17,011㎡	6,139㎡ (36.1%)	2,506㎡ (14.7%)	871㎡ (5.1%)	1,315㎡ (7.7%)	463㎡ (2.7%)	624㎡ (3.7%)	5,093㎡ (29.9%)
大阪市立 自然史博物館	平成18(2006)年 3月1日	12,066㎡	3,831㎡ (31.8%)	1,972㎡ (16.3%)	1,803㎡ (14.9%)	728㎡ (6.0%)	132㎡ (1.1%)	316㎡ (2.6%)	3,284㎡ (27.2%)
三重県総合博物館	平成26(2014)年 4月19日	10,779㎡	2,048㎡ (19.0%)	2,618㎡ (24.3%)	690㎡ (6.4%)	1,620㎡ (15.0%)	78㎡ (0.7%)	435㎡ (4.0%)	3,290㎡ (30.5%)

第5章 運営計画

ここでは、札幌博物館の運営方式や運営体制について整理していきます。

1. 運営方式の考え方

現在の日本の公立博物館の運営方式は、自治体の直営方式と指定管理者方式が中心となっています。

自治体による直営方式は、効率性において指定管理者制度に劣る可能性がある一方で、市の意向が反映され、継続的・安定的に事業が実施されるという利点があります。

一方、指定管理者制度は、民間のノウハウを活かした効率的な事業展開が期待できるものの、指定管理者が交代する可能性があることから継続性の面では直営に劣ります。

また、平成25（2013）年10月に地方独立行政法人法施行令が改正され、公立博物館も地方独立行政法人として運営が可能となり、一部の地方自治体では所管する博物館の地方独立行政法人化を検討しています。

札幌博物館では、これまで述べてきたとおり、“人とつながり 街にひろがるネットワーク型ミュージアム”を目指しており、札幌の独自性を自然史の視点から探求しつつ、市民や関係機関等とのつながりを構築していきたいと考えていることから、それらの活動に最適な運営方式について引き続き検討していきます。

2. 柔軟かつひらかれた運営体制

（1）組織の考え方

札幌博物館では、他都市の例なども参考にしながら、必要な組織について検討していきます。

また、札幌博物館における特徴的な事業の一つであるつながり創出事業を感動伝達事業、地域課題解決事業と相互に関連させながら、館全体の活動を街全体に広げ、連携させていく調整役の人材として、コーディネーターの配置についても検討を進めていきます。

さらに、庁内の人材活用はもちろん、市内の大学、関係機関等との人事交流などについても積極的に検討していきたいと考えています。

なお、これら組織の考え方については、運営方式に応じて編成を考えていく必要がありますので、今後、運営方式とあわせて検討を進めていきます。

(2) 市民の活動への参画登録制度の検討

札幌博物館を市民による活動の場として気軽に利用してもらうとともに、事業の企画や運営に参画してもらうことを目的として、市民の参画登録制度の構築を検討していきます。

登録メンバーの方には札幌博物館の施設・設備を安全、快適に使用するための研修を受講してもらい、いつでも標本作製や、事業の企画・運営などの活動を行えるようにします。単に展示を見たり、事業に参加したりするだけにとどまらず、札幌博物館を成長させるメンバーの一員になってもらうことで、市民に「私の博物館」としての愛着を感じてもらうことを目指します。

(3) 外部の有識者で構成する評価委員会

外部の有識者で構成した博物館活動を評価する委員会を設け、札幌博物館が、その使命に即した活動を行っているかどうかを、定期的に点検・評価するとともに、博物館活動で得た成果を行政の施策に活かす方策を館長等に助言する制度を検討をしていきます。

3. 誰もが気軽に利用できる開館形態

多くの市民や観光客にいつでも気軽に利用していただけるように、望ましい開館日時や利用料金を検討します。

(1) 開館日

収蔵資料や展示、施設の維持管理を適切に行う必要があることから、一定の休館日や、資料の整理、展示更新などに伴う特別休館日を設けることを検討します。

(2) 開館時間

管理運営の効率性とのバランスを考慮しつつ、多くの人が利用しやすい開館時間を設定していきます。

観光シーズンや週末、企画展や各種イベント開催時等には開館時間を変更するなど、利用者の要望や集客を考慮しながら、柔軟に対応できるよう検討します。

(3) 利用料金（入館料等）

博物館法¹⁵第 23 条（入館料等）には、公立博物館ではやむを得ない事情がある場合を除き、原則入館料等を徴収してはならない旨定められています。

札幌博物館に収蔵される資料は、博物館活動センター開設前から市民と協働して集めたものや寄贈されたもので、市民共有の財産です。札幌博物館は、これらの資料を使って調査・研究を行い、その成果をできる限り多くの方に知ってもらい、利用者との協働で活動を展開していくことを目指しています。そのためには、気軽に入館していただくこと、また何度でも足を運んで継続的な活動の場として利用してもらうことが必要であると考えています。

以上を踏まえ、国内の他館の事例なども参照し、適切な利用料金（入館料等）のあり方についても、検討を進めます。

¹⁵博物館法：昭和 26（1951）年に制定され、博物館の設置や運営に係る法律。平成 20（2008）年に一部改正された（学習の成果を活用して行う教育活動機会の提供、運営状況の評価及びそれらの情報提供、国や都道府県教育委員会による研修実施等）。

第6章 整備推進方針

ここでは、博物館を建設するまでに検討すべき項目を整理していきます。

1. 市民みんなで考え、つくる

「人とつながり、街にひろがるネットワーク型ミュージアム」の実現に向け、市民や関係機関とのネットワークを構築し、要望や意見を広く取り入れるとともに、これまで市民ボランティアが中心に実施してきた化石クリーニングや標本作製、展示資料・教材作製などの活動もさらに発展、拡充させながら、市民みんなで考え、つくる博物館の整備を進めていきます。

2. 多彩な専門職員の配置など体制づくり

各事業において基幹となる職員の配置を含め、本計画を着実に推進していくための体制をと整えていけるように検討を進めていきます。

3. 実現に向けて

今後の具体的計画については、「展示基本計画」、「整備基本計画」、「管理運営基本計画」を策定し、博物館実現に向けて着実に進めていきます。

資料 1. 次世代型博物館計画検討委員会設置要綱

(目的)

第1条 本市のこれまでの博物館計画を踏まえた、次世代型博物館計画策定にあたって、新しい時代に求められる札幌市の博物館のあり方、役割、機能及び、その内容について、専門的な立場及び市民の立場からの意見を聴くため、次世代型博物館計画検討委員会（以下「検討会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は次世代型博物館計画について、出席者が意見交換を行うものとする。

(構成)

第3条 委員会は学識経験者その他文化部長が適当と認めるものの中から、公募により選出された者2名を含む10名以内の委員で構成するものとする。

(設置期間)

第4条 委員会の設置期間は委員が協力依頼を受けた日から、平成26年9月30日までとする。

2 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(座長等)

第5条 委員会には、座長及び副座長を置くものとする。

2 座長及び副座長は、委員の互選により定める。

3 座長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、文化部長が必要に応じて招集する。

(オブザーバーの設置)

第7条 委員会には数名のオブザーバーを置き、委員会の会議に出席を求め、意見を聴くことができる。

(意見の徴取)

第8条 座長が特に必要があると認めるときは、委員会の会議に、委員・オブザーバー以外の者の出席を求め、資料の提出を受け、意見を聴くことができる。

(部会)

第9条 委員会はその所掌事項に係る特定の事項について、専門的な意見交換を行うため、博物館に係る学識経験者からなる部会を置くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、観光文化局文化部市民文化課において処理する。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、文化部長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成24年6月7日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

資料2. 次世代型博物館計画検討委員会名簿

■委員(10名)

(敬称略、氏名五十音順)

氏名	所属・職名
石森 秀三	北海道開拓記念館 館長 北海道博物館協会 会長
右代 啓視	北海道開拓記念館 学芸部 主任学芸員
大原 昌宏	北海道大学総合博物館 副館長 教授
坂井 文	北海道大学 大学院工学研究院 都市計画研究室 准教授
酒井 正幸	札幌市立大学 デザイン学部長
佐々木 亨	北海道大学 大学院文学研究科 歴史地域文化学専攻 教授
佐藤 弘毅	市民公募委員 日本銀行
沼崎 麻子	市民公募委員 北海道大学 大学院理学院 博士後期課程
松枝 大治	北海道大学 名誉教授 前北海道大学総合博物館長
松本 文夫	東京大学総合研究博物館 特任准教授

■オブザーバー(2名)

氏名	所属・職名
栗原 祐司	国立文化財機構本部事務局長 東京国立博物館総務部長
辻井 達一 (故人)	元北海道環境財団 理事長 元北海道大学農学部 教授、同附属植物園長

資料3. 展示案

ア) エントランス展示・ポータル展示²⁸

思わず近づき足を止める、目をひく展示とともに、導入として、札幌の自然と人を概観する展示を展開。

サッポロカイギュウ
小金湯産クジラ
厚田産アルビレオ科イルカ
復元・復原標本

5つのサブテーマをイメージする
展示概要等
導入展示



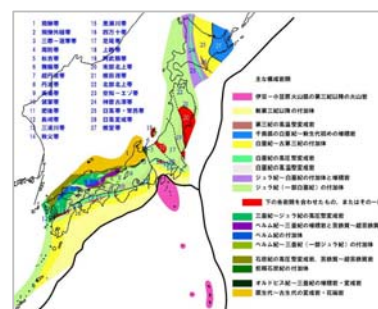
イ) さっぽろの独自性を示す5つのサブテーマ展示

サブテーマ1：さっぽろの自然景観の形成

札幌の地盤を形成する石狩低地帯は、南からのプレートの移動に、日本海とオホーツク海の拡大、さらに太平洋プレートの沈み込みによって形成されたという、国内はもとより世界的に見ても独自の形成過程を持っています。

札幌の美しい自然景観は、プレートの衝突による、激しい地殻変動や火山活動などの痕跡です。

札幌市は、政令指定都市として唯一、市内に国立公園（南区の山地の一部）及び国指定天然記念物（藻岩原始林・円山原始林）がともに存在し、多様な環境と豊かな自然が保持されています。



日本列島の地質構造（産総研）



薄別の約1億年前の地層（南区）

【サブテーマ1のシナリオ案】

- 1 白亜紀（1.4 億年～6600 万年前）～中新世（2300～533 万年前）の海の時代
 - ①薄別層－白亜紀の地層・プレートの運動と日本列島の形成－
 - ②小樽内川層－巨大生物の誕生する海・小金湯産クジラとサッポロカイギュウ－
 - ③石狩平野の形成－日本海・オホーツク海の開口と太平洋の沈み込み－
- 2 鮮新世（533 万～258 万年前）：火山の活動とその恩恵
 - ①藻岩公園－海底火山活動－
 - ②藻岩山・円山・三角山・手稲山－成長する活火山－

- 3 更新世（258万～1.17万年前）：今も続く東西圧縮
 - ①野幌丘陵・月寒丘陵—直下型地震の痕跡—
- 4 完新世（1.17万年前～現代）：氷期から間氷期へ
 - ①支笏火砕流—石山緑地公園：大災害の痕跡と札幌軟石の誕生—
 - ②手稲山地崩れ—タンネ・ウエン・シリ（アイヌ語）：長い・悪い・山の誕生—
 - ③豊平川とV字谷—豊平川のエネルギーと定山溪の景観—
 - ④豊平川河岸段丘—真駒内公園に刻まれた川の成長記録—
 - ⑤豊平川扇状地の形成・平岸面と札幌面—扇状地の成長—
 - ⑥精進川とトイ・ピラ（アイヌ語）—豊平の語源となる崖を削った川—
 - ⑦メム（アイヌ語）：湧水池の形成—地下水の恵—
 - ⑧月寒川・厚別川・野津幌川—月寒台地を削る川—
 - ⑨札幌の湿原—残された原風景—
 - ⑩星置の海食崖—縄文海進の証し—
- 5 緑の森の形成と現在の自然



手稲山の地すべり地形

サブテーマ2：さっぽろの生命と生物の進化

札幌の環境を決定した最も重要な要素は、札幌が極と赤道の中間に位置する北緯43度にあることです。札幌は、地球全体の寒冷化や温暖化の影響を受けやすい中緯度にあることで、地球規模の気候変動にともない、これまでに多様な環境をくりかえし経験してきました。

札幌の過去から現在に至る生物の変遷は、地球規模の変動に伴う札幌の環境変化の多様さ、ダイナミックさを反映しています。例えば札幌で産出した海牛類¹⁶、鯨類¹⁷の化石は、地球環境の変動と動植物の適応進化を受けて、世界で最初に大型化した、環境と生物進化と生物多様性の関連性を実証する世界的にも貴重な標本です。

環境の多様性は生命の誕生や生物の進化に影響を与え、私たち人類の進化にもつながっています。



サッポロカイギュウ



小金湯産クジラ化石クリーニング作業

¹⁶海牛類の化石：例としてサッポロカイギュウ。これは海牛目に属する哺乳類で、平成14（2002）年に豊平川で発見された約820万年前に生息していた世界最古の大型海牛とされ、海牛類の大型化の時期とメカニズムを示す貴重な資料として世界的に注目される。

¹⁷鯨類の化石：例として厚田産アルビレオ科イルカ、小金湯産クジラ化石。厚田産は鯨偶蹄目ハクジラ亜目マイルカ上科アルビレオ科に属するハクジラで、北西太平洋域では、厚田村（現：石狩市）から初めてその化石が産出した。小金湯産は研究中。

【サブテーマ2のシナリオ案】

-1 生命誕生

- ①誕生の背景—太陽、月、地球の奇跡—
- ②ストロマトライト¹⁸—地球上の酸素を生み出した微生物—
- ③縞状鉄鉱石¹⁹—生命と人類を支えた金属—
- ④チムニー²⁰と深海底生物—原始生命のゆりかご—
- ⑤全球凍結²¹と生命大爆発—エディアカラ動物群・バージェス動物群²²—

-2 生物の進化

- ①進化とは何か 環境×進化×時間＝生物多様性
- ②食う・食われる・追う・逃げる—魚類の進化—
- ③最初の陸上植物—無から有を生み出す光合成・植物の進化—
- ④陸上脊椎動物の進化—安全確実に子孫を残すための戦い—
- ⑤生物の大進化と大絶滅—生物の進化はピンチが生みだした—

-3 北海道の化石

- ①北海道の化石・アンモナイト
- ②北海道の化石・は虫類→クビナガリュウ、モササウルス²³
- ③北海道の化石・ほ乳類—鯨偶蹄類・海牛類・鰭脚類・長鼻類・束柱類・奇蹄類—

-4 札幌・石狩低地帯の化石

- ①札幌の環境—N43°の幸運—
- ②サッポロカイギュウ—海牛の進化—
- ③小金湯産クジラー—鯨の進化—
- ④貝化石群集の変遷



サッポロカイギュウ

-5 人類

- ①哺乳類とは
- ②ヒトとは…—人体に残る進化の跡—
- ③生き残りの原則—ピンチはチャンス!食べる!! 仲間を増やせ!!!—

¹⁸ ストロマトライト：藍藻類。光合成によって酸素を作り、大気中に放出した初期の生物。

¹⁹ 縞状鉄鉱石：海洋中に放出された酸素によって酸化され、海底に堆積したとされる鉄鉱石。

²⁰ チムニー：海底の熱水噴出によって噴出孔の周辺に形成された煙突状の構造物。

²¹ 全球凍結：地球全体が氷に覆われた状態。凍結によって大絶滅がおり、その後飛躍的な生物進化が起こったとされる。

²² エディアカラ動物群：約6億年前南オーストラリアの原始的動物群、バージェス動物群：約5億年前カナダの無脊椎動物群。

²³ クビナガリュウ、モササウルス：北海道の白亜紀を代表する海生爬虫類。

サブテーマ3：さっぽろの自然と人類の共生

札幌は国内でも有数の急流河川である豊平川によって形成された扇状地に拓けた街です。扇状地は豊平川の大洪水のたびに成長し現在に至っています。人間の側から見ると自然災害の証ですが、現在では、水はけのよい安定した大地となり、人々の生活の基盤となっています。また、定山溪・小金湯の温泉は、火山活動によるマグマの熱が供給源になっています。このように、札幌には、厳しい自然と、その恩恵を受けて営まれた歴史や人々の暮らしが刻まれています。

札幌での暮らしには、人間による自然の改変と、厳しい自然の中でいかに衣食住を確保するかが最大の課題でした。現代において自然と人類の共生を考える時、北海道の自然と調和して誕生したアイヌ文化にみられる、ウレシパ・モシリ²⁴という自然と人を融合してとらえる自然観と、それに基づく暮らしを自然史の視点で明らかにすることは、これからの方向性を見出すひとつの参考になるかもしれません。

【サブテーマ3のシナリオ案】

-1 サッポロのヒト

- ①脱アフリカの挑戦と残された証拠ーミトコンドリアDNAと乳糖不耐性²⁵ー
- ②シベリアから進入したマンモスハンター²⁶ー札幌の旧石器ー
- ③気候変動と新石器文化
- ④アイヌの自然ーウレシパ・モシリの科学ー
- ⑤日本人の起源：縄文系・弥生系ー私たちの縄文度・弥生度ー

-2 札幌の自然

- ①札幌の四季ー札幌の四季を決定する要素
- ②札幌の気象

-3 自然との共生

- ①扇状地という自然・残された原始林
- ②豊平川の魚ーサケの進化と回遊のしくみー
- ③札幌の野鳥ーわたりー
- ④クマ・シカ的生活史と人との共生



豊平川扇状地と西部山地（環境局提供）



火山活動の恩恵・定山溪温泉と豊平川によって削られたV字谷



日本列島の植生分布

²⁴ ウレシパ・モシリ：アイヌ語で「育み合う大地」。自然と人を一元的にとらえ、自然と人の共生をあらわした自然観。

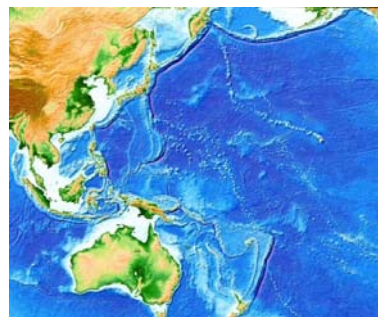
²⁵ 乳糖不耐性：乳糖の消化酵素がないため牛乳を飲むと下痢などの症状を起こすこと。

²⁶ マンモスハンター：マンモスを代表するマンモス動物群を狩猟の対象とした北方系民族の一群。

サブテーマ4：さっぽろの交流史

ユーラシア大陸の東縁に浅い海峡をはさんで並び日本列島は、地球規模の寒暖に同調した海水準の上昇下降にあわせ、大陸との接続と分断を繰り返してきました。日本に進出した人類は、寒冷期の海水面低下を利用し、約4～3万年前に朝鮮半島から、約2万年前にはサハリンからマンモスを追って進入しており、以降、「北方系」と「南方系」の自然と文化が交流した歴史を持ちます。

氷期が明け、温暖化した日本列島には、マンモス等の大型獣が姿を消した代わりに、南方と北方、両方の恵みを楽しむことができる温帯落葉広葉樹林が東日本を覆い、豊かな森の恵みを利用した縄文文化が東日本を中心に形成されました。札幌はこの縄文文化の北端、北方特有の冷温帯針広混交林の南端に位置することから、道南以南および、千島・オホーツク方面やサハリン方面からも異なる文化が入ってきましたが、これらは、互いに排除しあうことなく、交流・融合しながら北海道独自の文化を形成していきました。



島弧海溝系

【サブテーマ4のシナリオ案】

-1 島弧海溝系²⁷と海峡の成立

- ① 気候変動と海峡の成立
- ② 気候変動と動物群の移動（北広島動物群→周口店動物群→黄土動物群²⁸）
- ③ 生物境界線と現在の生物相
- ④ 森林の植生を背景にした文化の成立
- ⑤ 札幌から広がった動植物：セイヨウタンポポ、ザリガニ…

サブテーマ5:さっぽろの形成史

ロシア帝国の南下政策は14～19世紀に地球規模で起こった小氷期が大きな要因と考えられています。これに江戸幕府や明治政府が強い脅威を感じたことをきっかけに北海道の急速な近代化が進められ、札幌に様々な人々たちが送られました。

江戸末期から明治初期にかけての札幌の街づくりは、幕府、政府の主導により、短期間のうちに巨費が投じて急速に開拓が進められ、原生の自然環境は激変しました。しかし、現在



市街地之図（明治32年）札幌市公文書館

²⁷ 島弧海溝系：弧状列島と海溝が平行に形成される活動帯。プレートの沈み込みによって形成される。

²⁸ 北広島動物群、周口店動物群、黄土動物群：各地域で産出したある時代の動物化石群。

も、かつて市街地を流れた川の削った起伏や河畔に自生したハルニシの巨木等、開拓当初の景観を彷彿とさせる地勢や植生が市内の随所に見る事ができます。

豊平川扇状地の上に形成された札幌の市街地は、地質や地形を熟慮したまちづくりが行われ、一見すると碁盤の目のように整然と統一して整備された近代的な都市のように見えますが、開拓の歴史を見ると、それぞれ異なった開拓団が市内各地に入植し、各地域の自然や地勢を活かしながら独自に街を拡大していったことから札幌特有の街並が形成され、今日に至っていることがわかります。



ファイターズ通り（旧斜め通り）は伏籠川に沿って作られた道路

【サブテーマ5のシナリオ案】

-1 14～19世紀の小氷期がもたらした世界動向

- ①気候変動と飢饉－ロシアのシベリア開拓と太平洋進出の理由－
- ②北方海域調査：『東方見聞録』『ガリヴァ旅行記』－最後に残されたユートピア－
- ③日本の飢饉と蝦夷地開拓－日本の探検家たち－
- ④本府札幌設置の自然背景
- ⑤フロンティアの人材

-2 街並

- ①ジオラマ展示－人々の暮らしと街並形成の自然背景－
- ②今昔 AR 配信
- ③札幌の開墾事業
- ④道路開削と市街地の形成－札幌のふしぎ－
- ⑤札幌の災害（洪水・地震・津波・豪雪・火山・地崩れ）

-3 農業

- ①米
- ②野菜（玉葱、大根…）
- ③果物（リンゴ…）

-4 十区十史、十人十色コーナー

-5 札幌の色






創成川と創成橋

資料 4. 札幌博物館における3事業の具体例

- ・感動伝達事業（エモーション事業）
展示や普及・交流活動を通して、札幌の魅力（独自性）を伝えることで、感動し、興味を持ってもらう機会を提供する役割を担う事業
- ・地域課題解決事業（ソリューション事業）
資料の収集・保存、調査・研究業務を基盤とし、活動の成果を活かして地域の課題を自然と人の関わりの観点から解決する役割を担う事業
- ・つながり創出事業（リレーション事業）
博物館で様々な人や物が出会い、そこから生まれた成果をネットワークを使ってまち全体に広げることで、博物館活動の活性化を図る事業

事業の具体例		
名称	概要	関連事業分野 ※関連分野は赤丸
館内ガイドツアー	展示室から収蔵庫まで学芸員のガイド付きで館内を巡る	エ ソ リ
館外1hour ツアー	手短に誰でも気軽に参加できる自然・文化資産の現地ガイドツアー	エ ソ リ
バックヤードツアー	普段は見るできない収蔵庫等、博物館の裏側をガイドするツアー	エ ソ リ
モバイルお散歩 ミュージアム	市内を巡るためのガイドとなるスマートフォン用アプリの開発	エ ソ リ
お助けミュージアム	夏休みの宿題から自主研究のお助けまでカバーするよろず相談窓口	エ ソ リ
お届けラボ	あらゆる場所に出向き、一緒に調査・研究を実施する移動実験車	エ ソ リ
メンバーシップ研究員制度	特定の分野の知識や経験を持つ市民に研究環境を提供し、協力依頼	エ ソ リ
オープン・レク	学芸員と自由で気軽なトークができるミニ・オープン・カフェ	エ ソ リ
オープン・ラボ	標本作製等、ボランティア活動に開放し、活動に参画するきっかけづくり	エ ソ リ
オープン・ファクトリー	展示や標本・グッズ製作等、館内の活動に自由に参加できる機会	エ ソ リ
アウトリーチ・プログラム	学校や児童会館をはじめ、あらゆる場所に出向いて展示解説を展開	エ ソ リ
e-ミュージアム配信	映像・情報コンテンツ、教材等を、ウェブを通して定期的に配信	エ ソ リ

【凡例】  感動伝達(エモーション)  地域課題解決(ソリューション)  つながり創出(リレーション)

資料5. 地域課題解決事業（ソリューション事業）の展開例

【例1】まちの魅力創造に貢献

学際的な成果にもとづく同時多発的な取り組みで
話題性を提供するとともに、まちに新しい人の流れをつくりだす

想定
される
つながり拠点

- 札幌市管轄の資料館・文化施設等
- 北海道博物館、北海道大学総合博物館
- 市内・道内外の博物館

連携の
ための
方策

- 互いの得意分野の視点から、共通のテーマに基づき調査・研究を実施するとともに、そのテーマに基づき同時多発的に企画展を実施

期待
される
効果

- 様々なアプローチにより、市民や観光客がより深く札幌に触れることが可能
- 話題性の提供で札幌への来訪者が増加



例：市内中心部の湧水の痕跡を巡検（北海道大学総合博物館など関係機関との連携事業）

【例2】地域の疑問を調査し、身近な課題を解決

移動実験室やモバイル展示を活用して市内全域へ移動し、
地域の疑問や身近な課題を地域の子どもたちとともに解決する

想定
される
つながり拠点

- 市内小・中学校、高等学校等
- 各地の市民活動団体
- 市内児童会館、町内会 等

連携の
ための
方策

- 学校、教員との事前協議
- 多様なアウトリーチ活動
- 地域の研究団体との協働

期待
される
効果

- 地域を自ら知る活動で郷土への愛着と誇りを醸成
- 地域の魅力を地域から発信
- 地域学習における手法の幅の拡がり



移動実験室やモバイル展示を用い、
地域で調査や研究の成果を展開するイメージ

資料6. つながり創出事業（リレーション事業）の展開例

教育機関との連携とその内容

項目	つながり拠点	具体的な内容
学校教育	幼稚園・保育園 児童会館	・博物館での幼児向けプログラム展開 ・幼稚園等へ向けたアウトリーチ活動等
	小学校・中学校	・学校付属の郷土資料館との相互連携、アウトリーチ活動 ・理科・社会科等のカリキュラムに合わせた博物館授業等 ・札幌の自然に関する小冊子の検討 ・モバイル展示の積極展開等、空き教室の効果的な利用 ・部活動、クラブ活動への支援
	高校・大学	・授業・講座の単位認定、実習の受け入れ等 ・フリースクールによる単位取得等 ・部活動、クラブ活動への支援
	特別支援学校	・展示のユニバーサルデザイン

連携の検討例

【例1】道内を中心とした博物館

他館との学際的な研究を通し、あらゆる角度から札幌を再認識
新たな研究成果を札幌から世界に発信

連携の
実施
内容

- ・テーマを統一する等の協同展・合同展の開催
- ・資料の貸し借りによる展示、普及・交流活動
- ・異なる専門分野が連携した学際的な研究

期待
される
効果

- ・相乗効果による博物館利用者の増加
- ・展示、普及・交流の幅が広がり、満足度が向上
- ・新しい学際的な研究成果



【例2】小学校・中学校

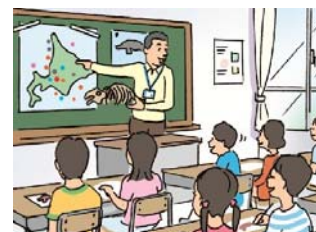
アウトリーチ活動や子どもたちの自主的な調査活動を通し、
札幌市民としての郷土への愛着と誇りを育む

連携の
実施
内容

- ・学校へのアウトリーチ活動(出前教室等)
- ・博物館に向いた理科・社会科等の授業
- ・子どもと協働したフィールドの調査

期待
される
効果

- ・実物等を交えた教育でより深い関心や理解
- ・子どもたちの理科離れ対策の有効な一方策
- ・教育普及に関する研究データの蓄積と反映



【例3】教育委員会及び教育機関

札幌という郷土を学ぶために独自の教材や教育システムを開発
新たな地域学習のあり方を札幌から全国に発信

連携の
実施
内容

- ・保育園や幼稚園児向けの独自教材開発
- ・フリースクール²⁹と連携した学習プログラムの実施
- ・博物館を起点とする教育システムの開発・評価

期待
される
効果

- ・より深く地域を知る教育で郷土愛向上に寄与
- ・札幌から新たな地域学習のあり方を発信
- ・地域学習における手法の幅の広がり



29 フリースクール：主に不登校の子どもを対象とした、教科の選択等に生徒の自主性を重視する学習法を取り入れ、従来の学校のような管理や評価等を行わない教育施設。

ツアーミュージアム検討例

【例1】さっぽろの生命と生物の進化

海底地くずれや古生物の痕跡を見学し
数々の環境変動を経て生命が誕生し、進化してきたことを学ぶ

ツアー
コース

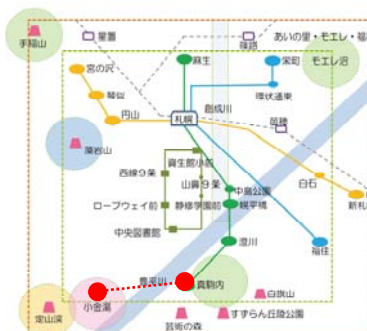
- つながり起点:アイヌ文化交流センター→砥山ダム(地層見学・化石採取)→小金湯

ツアー
内容

- 札幌の自然の独自性を実感する
- 化石発掘地の見学や化石発掘体験
- 海底地くずれ跡等や断層の見学

期待
される
学び

- 札幌は世界でも特殊な位置環境であることを知る
- 札幌に生息していた古生物について知る
- 環境変動の痕跡から、札幌の環境変遷を実感する



【例2】さっぽろの社会と街並

市街地をめぐりながら、開墾の証を確認し
今日にいたるまでの札幌のまちづくりのあり方を学ぶ

ツアー
コース

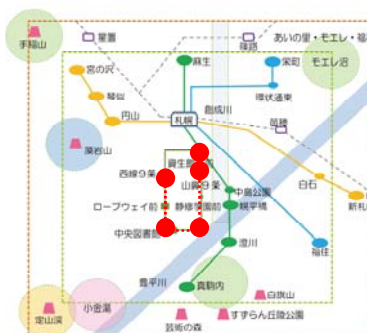
- 札幌博物館を起点とし、市電全線を乗り降りする

ツアー
内容

- 大通・創成橋
- 本願寺道路
- 山鼻屯田兵の町割り見学

期待
される
学び

- 札幌の開拓の歴史を知る
- 市街地に開拓使入植による開墾の証が残ることを知る
- 歴史を知り、まちの未来を考えるための契機となる



【例3】さっぽろのメムを巡る

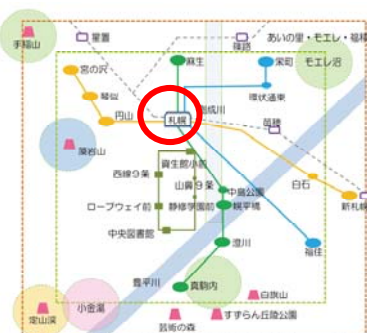
<コース> … 右図の○部分
博物館→知事公館→北大植物園→偕楽園→
サクシコトニ川(北海道大学構内)
→北海道大学総合博物館

ツアー
コース

- 市内に残るメムの見学
- メムの残した特徴的な地形の観察

ツアー
内容期待
される
学び

- 豊平川扇状地の恵み・メムをたどりながら、自然と人が共生しながら暮らしてきた歴史を学ぶ



政令指定都市がある都道府県立博物館、政令指定都市立博物館、及び三重県総合博物館

都道府県	都市名	館名	属性		施設規模 (㎡)										部門別面積 (㎡) と延床面積に占める割合 (%)										立地・運営形態						職員数 (人)					
			開館年	開館主体	敷地面積	延床面積	常設展示	特別展示	展示室	図書研究	収蔵保存	展示	教育普及	管理	その他共用	割合	公共交通の便	駐車場の有無	管理運営方式	職員合計	常勤職員	非常勤職員	内訳	専任	嘱託	パート	パート	嘱託	パート							
北海道	札幌市	北海道開拓記念館	S46 (1971)	歴史 市立	4,107	12,845	3,513	489	4,102	32%	515	4%	2,349	18%	4,102	32%	546	4%	1,942	15%	3,489	27%	20	36%	9	16%	0	0%								
宮城県	仙台市	仙台市博物館	S36 (1981)	歴史 市立	19,758	10,333	1,849	775	2,624	24%	205	2%	1,902	18%	3,136	29%	410	4%	384	4%	4,797	44%	2	6%	6	19%	11	35%								
埼玉県	さいたま市	埼玉県立歴史と民俗の博物館	S46 (1971)	歴史 市立	12,754	11,364	2,558	1,964	3,712	33%			1,417	12%	4,984	44%					4,963	44%	36	21	58%	4	11%	9	25%	0	0%					
千葉県	さいたま市	さいたま市立博物館	S55 (1980)	歴史 市立	1,571	2,330	389	156	546	23%	207	9%	392	17%	593	25%	207	9%	197	8%	734	31%	10	3	30%	0	0%	5	50%	1	10%					
			H1 (1989)	総合 市立	13,178	15,254	4,014	277	4,291	28%	558	4%	4,151	27%	4,291	28%	545	4%	458	3%	5,151	34%			57	44	77%	0	0%	6	11%	4	7%			
神奈川県	横浜市	神奈川県立歴史博物館	S58 (1983)	歴史 市立	8,661	2,416	1,156	277	1,433	59%													28	5	18%	11	39%	6	21%	6	21%					
			H7 (1995)	歴史 市立	4,161	10,365					1,306	12%	619	6%	3,896	37%	386	4%	1,251	12%	3,108	29%			50	10	20%	4	8%	20	40%	14	28%			
新潟県	新潟市	新潟県立自然科学館	S56 (1981)	自然 市立	40,160	9,269	1,862	362	2,224	24%	583	6%	1,901	21%	2,333	25%	543	7%	424	5%	3,385	37%			31	12	39%	1	3%	18	58%	0	0%			
			H16 (2004)	歴史 市立	25,358	19,542	3,768	500	4,368	22%	909	5%	2,433	12%	6,125	31%	2,409	12%	3,801	19%	3,864	20%			37	10	27%	8	22%	9	24%	8	22%			
愛知県	名古屋市	名古屋市博物館	S52 (1977)	歴史 市立	15,100	18,222	1,868	863	2,831	15%	884	5%	3,187	17%	4,267	23%			3,115	17%	5,298	28%			42	17	40%	5	12%	15	36%	2	5%			
			H13 (2001)	歴史 市立	13,000	23,594	4,118	893	5,011	21%	470	2%	2,188	9%	5,011	21%	976	4%	451	2%	14,598	62%			32	18	56%	1	3%	11	34%	0	0%			
兵庫県	神戸市	神戸市立博物館	S49 (1974)	自然 市立	6,743	12,966	3,066	765	3,831	32%	1,803	15%	1,972	16%	3,831	32%	360	7%	316	3%	3,284	27%			25	13	52%	0	0%	11	44%	0	0%			
			S57 (1982)	歴史 市立	3,053	10,373	2,048	782	2,830	28%	412	4%	1,950	19%	3,065	30%	844	8%	251	2%	3,552	35%			23	11	48%	0	0%	10	43%	0	0%			
福岡県	福岡市	福岡市博物館	H14 (2014)	総合 市立	約31,000	17,011	5,530	509	6,139	36%	871	5%	2,506	15%	6,139	36%	1,315	8%	624	4%	5,556	33%			36	18	50%	0	0%	16	44%	0	0%			
			H2 (1990)	歴史 市立	50,649	16,729	2,310	1,099	4,309	26%	395	2%	2,129	13%	4,552	27%	923	6%	825	5%	7,905	47%			36	15	42%	4	11%	8	22%	9	25%			
三重県	津市	三重県総合博物館	H36 (2014)	総合 市立	38892	10,779	820	1,078	1,898	18%	690	6%	2,618	24%	2,048	19%	1,520	15%	435	4%	3,368	31%														
			-	総合 市立	18,092	12,317	2,585	539	3,324	-	672	-	1,942	-	3,924	-	827	-	949	-	4,673	-			34	15	-	4	-	11	-	3	-			
対象	19館																																			

（仮称）札幌博物館基本計画（案）

平成 27 年（2015 年）2 月発行

○編集・発行

札幌市観光文化局文化部市民文化課（札幌市博物館活動センター）

〒060-0001 札幌市中央区北 1 条西 9 丁目 リンケージプラザ 5 階

電話：011-200-5002 F A X：011-200-5003

E メール museum@city.sapporo.jp

U R L <http://www.city.sapporo.jp/museum/outline/kihonkeikaku.html>

この冊子は再生紙を使用しています。
